

東京電力福島第一原子力発電所事故にともなう長期避難の実態
—2017年第2回双葉郡住民実態調査—

The Problems of Long-term Refugees from the Nuclear Disaster after the
Accident at TEPCO Fukushima Daiichi Nuclear Power Station
: The Second Survey on the Condition of Residents of Futaba-Area in 2017

丹波 史紀 Fuminori TAMBA	佐藤 慶一 Keiichi SATO
サトウ タツヤ Tatsuya SATO	清水 晶紀 Akinori SHIMIZU
関谷 直也 Noaya SEKIYA	廣井 悠 U HIROI
除本 理史 Masafumi YOKEMOTO	安本 真也 ShinyaYASUMOTO

目 次

- 0. はじめに
- 1. デモグラフィック要因
 - 1.1 自治体別の回答数
 - 1.2 性別
 - 1.3 年齢
- 2. 仕事
 - 2.1 職業上の地位
 - 2.2 業種
 - 2.3 同居していた人の人数
 - 2.4 同居していた人の現状
 - 2.5 現在の世帯の状況
- 3. 住居
 - 3.1 震災時の住まい
 - 3.2 震災時の住まいの避難区域
 - 3.3 震災時の住まいの線量
 - 3.4 現在の住まいの種類
 - 3.5 現在の住まい（震災時の場所か）
 - 3.6 震災時の住まいの状況（震災時の場所に住んでいない回答を対象）
 - 3.7 震災時の住まいへの通いの状況（震災時の場所に住んでいない回答を対象）
 - 3.8 現在の住まい（福島県内か県外か）

- 3.9 帰還意向
 - 3.10 住まいの修理や再建の状況（震災時の場所に住んでいる回答を対象）
 - 4. 健康
 - 4.1 健康状態
 - 4.2 精神的健康状態
 - 5. 賠償
 - 5.1 現在の生活のやりくり
 - 5.2 経済的不安
 - 5.3 医療費等の減免措置がなくなることへの不安
 - 5.4 賠償終了に対する不安
 - 5.5 賠償に関する困りごと
 - 6 .生活
 - 6.1 現在の生活で困っていること
 - 6.2 生活時間の変化
 - 6.3 心配事を聞いてくれた人の存在
 - 6.4 行政やメディアへの信頼度
 - 7 復興観
 - 7.1 復興に関する不安感
 - 7.2 今後の見通し
- 付属資料（アンケート調査の単純集計）

キーワード：東京電力福島第一原子力発電所事故、原子力災害、放射線、長期避難、悉皆意向調査

執筆分担：

丹波 史紀（立命館大学 産業社会学部・東京大学 大学院情報学環）	0. ～2.2
佐藤 慶一（専修大学 ネットワーク情報学部）	3.4 ～4.
サトウ タツヤ（立命館大学総合心理学部）	
清水 晶紀（福島大学 行政政策学類）	0. ～2.2
関谷 直也（東京大学 大学院情報学環総合防災情報研究センター）	7.
廣井 悠（東京大学 大学院工学系研究科）	2.3 ～ 3.3
除本 理史（大阪市立大学 大学院経営学研究科）	5.
安本 真也（東京大学大学院学際情報学府 博士後期課程）	6.

0. はじめに

2011年東日本大震災において、東日本の地域は甚大な被害を受けた。とりわけ、福島県では、地震・津波に伴い発生した東京電力福島第一原子力発電所事故の影響が大きく、広域の放射能汚染とそれに伴う広域・長期避難という、自然災害とは異なる原子力災害の特徴が浮き彫りになった。

すなわち、広域の放射能汚染は、都道府県をもまたぐ広域的な避難を生みだした。具体的には、原子力災害法制の下で避難指示が出された区域の市町村においては、市町村単位で避難先市町村を確保しているが、その場合にも、埼玉県加須市へと避難した双葉町のように、県外への集団的避難が発生している。加えて、個人単位では、各自の判断で全国各地へと避難している。さらには、避難指示が出されていない区域の市町村からも、放射能汚染への不安や避難指示基準への不信から、全国各地へ避難を決断する住民が続出した。

また、放射能汚染の長期化に伴い、様々な問題が顕在化した。第一に、長期避難の現実化による住宅や就労の問題、さらには、個人・家庭・地域の生活環境の変化である。避難期間の終期を見通せない避難者にとっては、避難生活中の住宅や就労先の確保は喫緊の課題であり、避難の長期化に伴い、個人の精神状態の悪化、家庭内の不和、地域コミュニティの消滅といった問題が発生している。第二に、放射能汚染に伴う健康や福祉の問題である。避難者の場合には、初期被ばくや避難生活に伴う心身不調の問題、避難指示が出されていない区域の居住者・帰還者の場合には、初期被ばくやその後の低線量被ばく、汚染地域での生活に伴う心身不調の問題が発生している。第三に、放射能汚染に伴う第一次産業の実害や風評被害の問題である。福島県ないし隣接県産品から放射性物質が検出され、その一部が出荷制限となったこともあり、市場に流通している福島県ないし隣接県産品に対しても、消費者の買い控え、価格下落が発生し、現在に至るまでその傾向は続いている。

以上のような原子力災害の実態を踏まえ、本稿の執筆メンバーは、東京電力福島第一原子力発電所の周辺の福島県双葉郡の住民を対象に、二回にわたる悉皆調査を実施し、原子力災害の住民生活への影響と住民の生活実態の変遷とを明らかにしようとしてきた。双葉郡は、原子力災害法制に基づく避難指示が全域に発出された地域であり、広野町・楢葉町・富岡町・川内村・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村の8町村から構成されている。その全域の住民に対して悉皆調査を実施した例は他になく、避難を余儀なくされた被災者の実態を把握する上で、二回の調査の資料的価値は非常に高いものと思われる。

今回、本稿においては、2017年2月に実施した第2回調査の結果を整理し、2011年9月に行った第1回調査¹との比較を念頭に、事故から6年後の被災者の実態を分析することに

¹ 福島大学災害復興研究所編：平成23年度 双葉8か町村災害復興実態調査基礎集計報告書（第2版）、2012年2月14日、を参照されたい

したい。第2回調査の時点では、一部地域の避難指示が解除され、川内村・葛尾村・楡葉町では住民の帰還が始まっている。そのため、調査結果の分析を通じて、避難指示の継続地域と解除地域が混在する中での被災者の実態を明らかにすることができよう。加えて、本稿執筆時点である2020年1月現在でも、一部地域での避難指示は継続している。その意味では、調査結果の分析を通じて、現在の被災者の置かれた状況に対しても、有意義な視点を提供できよう。

なお、第2回調査に際しては、いくつかの留意点がある。まず、調査方法について、郵送調査法により実施していることである。調査対象住民のプライバシー保護の観点から、調査メンバーは個別住民の個人情報に触れず、調査実施に際しては双葉郡の地方自治体の協力により各自治体から調査票を発送した。次に、第1回調査とは調査対象者・発送数・回答数に違いがあることである。第1回調査では8町村すべての住民を対象に悉皆調査を行ったが、第2回調査では広野町を除く7町村の住民が対象となっている（調査した7町村の住民については悉皆調査）。そのため、第1回調査では、発送数28,184数、回答数13,576数（回収率48.2%）であったが、第2回調査では、発送数26,582数、回答数10,013数（回収率37.7%）であった。最後に、（事故当時の）住民基本台帳上の世帯ベースではなく、避難実態にあわせた世帯ベースで調査を実施していることである。双葉郡の住民は福島県内外に広域避難しており、第1回調査では、三世代以上で生活していた家族の48.9%が家族離散しているという実態が明らかになった。各地方自治体は、避難先での世帯分離が進んでいる実態に合わせ、分離された世帯総てに広報誌を発送している。第2回調査も、より避難実態に沿った課題を把握することを目的として、行政実務に沿う形で実施したため、その発送数は住民基本台帳上の世帯数よりも多くなっている。

・調査主体

福島大学うつしまふくしま未来支援センター

調査チームメンバー

丹波 史紀（立命館大学産業社会学部）

関谷 直也（東京大学大学院情報学環総合防災情報センター）

佐藤 慶一（専修大学ネットワーク情報学部）

除本 理史（大阪市立大学大学院経営学研究科）

清水 晶紀（福島大学行政政策学類）

廣井 悠（東京大学大学院工学系研究科）

サトウ タツヤ（立命館大学総合心理学部）

・調査票配布期間

2017年2月1日（水）から3月末

・調査票配布世帯数

1) 調査票配布数 26,582 票

2) 町村別の配布数

浪江町	6,916 票	双葉町	2,764 票	大熊町	4,487 票	富岡町	7,013 票
檜葉町	3,568 票	葛尾村	651 票	川内村	1,183 票		

・調査票配布方法

郵送調査（各町村協力のもと、対象全世帯に個別発送）

・調査票回収方法

郵送

・経費

三井物産株式会社環境基金「三井物産環境基金 2014 年度 研究助成」

表 0.1 第 1 回調査と第 2 回調査の比較

	第 1 回調査 (2011 年 9 月実施)	第 2 回調査 (2017 年 2 月実施)
発送数	28,184	26,582
回答数	13,576	10,013
回収率	48.2%	37.7%

※表は町村事の発送数

1. デモグラフィック要因

1.1 自治体別の回答数

本調査の回答数は、総数 10,013 件（回答率 37.7%）であった。各自治体の回答数は、檜葉町 1108 (31.1%)、富岡町 2440 (34.8%)、川内村 314 (26.5%)、大熊町 1702 (37.9%)、双葉町 1020 (36.9%)、浪江町 3029 (43.8%)、葛尾村 238 (36.6%) である。双葉郡内の広野町については、協力が得られなかったので対象とはしていない。

元の居住地と一緒に生活していた家族が、原子力災害による避難の影響を受け、避難先で世帯分離が進んだ。このことから、震災後各自治体は避難する住民への情報提供として、住民基本台帳に基づく世帯ベースではなく、避難実態にあわせて離散する世帯総てに広報誌を発送した。第 1 回双葉郡調査では、三世代以上で生活する家族の 48.9% が家族離散している実態を示した。2011 年から数年が経過したことから、原子力災害に伴う避難に加え、通常の人口変動（進学・就職・結婚・死別など）も進行していることから、第 1 回目と第 2 回目の調査の母数も一致していない。

なお、回収した調査票において、性、年齢、元の居住地全てが無回答・無効回答であるものについては無効票とした。

表 1.1.1 町村別の回収率

	発送数	回答数	回収率(%)
檜葉町	3568	1108	31.1
富岡町	7013	2440	34.8
川内村	1183	314	26.5
大熊町	4487	1702	37.9
双葉町	2764	1020	36.9
浪江町	6916	3029	43.8
葛尾村	651	238	36.6
合計	26582	10013	37.7

1.2 性別

回答者の男女比は、全体で見ると、男性 67.2%、女性 27.2% であった（無回答 5.6%）。各自治体別も同様の傾向であり、60 台後半から 70 台前半の割合であった。各自治体別の男女比は下記の通りである。

表 1.2.1 調査対象者の性別

	調査数 (N)	男性(%)	女性(%)	無回答(%)
檜葉町	1108	64.5	30.2	5.2
富岡町	2440	65.2	29.8	5.0
川内村	314	70.4	24.8	4.8
大熊町	1702	65.7	28.3	6.0
双葉町	1020	68.4	26.0	5.6
浪江町	3029	69.7	24.7	5.6
葛尾村	238	69.3	22.3	8.4
全 体	10013	67.2	27.2	5.6

1.3 年齢

回答者の年齢については、全体についてみると、10～20代 1.4%、30代 5.8%、40代 10.1%、50代 16.0%、60代 31.1%、70代 21.4%、80代 11.4%、90代以上 1.7%、無回答 1.2%であった。最も多い世代は、60代であり、70代、50代と続く。全体を見ると、回答者の8割以上が50代以上であった。自治体で見ると川内村は50代以上で回答者の9割を越えている。

なお、第1回目の双葉郡調査では、10～20代 4.2%、30代 10.7%、40代 13.6%、50代 23.4%、60代 24.7%、70代以上 22.8%であった。2011年から6年ほどが経過したために、年齢層が相対的に高年齢になる傾向が見られた。

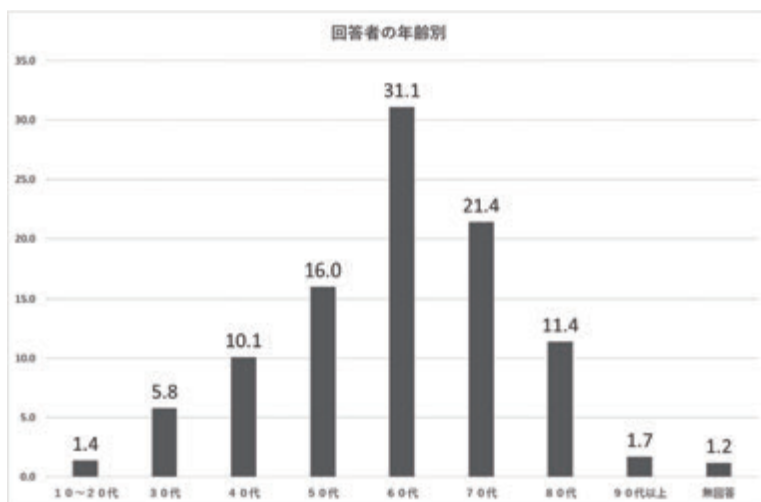


図 1.3.1 調査対象者の年代 (N=10013)

2. 仕事

2.1 職業上の地位

本調査では、震災前後の職業上の地位について聞いている。全体で見ると、「正規の職員・従業員」については震災前 36.5%、震災後 20.6%であった。「派遣社員」は震災前 1.0%、震災後 0.9%、「パート・アルバイト（契約社員、嘱託を含む）」は震災前 8.2%、震災後 6.9%、「会社などの役員」は震災前 4.0%、震災後 3.2%、「自営業主（自由業を含む）」は震災前 14.3%、震災後 6.5%、「家族従業者（農家や商店など自営業主の家族）」は震災前 4.8%、震災後 1.3%、「内職」は震災前 0.3%、震災後 0.7%、「無職（主婦・主夫を含む）」は震災前 28.3%、震災後 55.5%、「学生」は震災前 0.5%、震災後 0.2%、「無回答」は震災前 2.1%、震災後 4.1%であった。「正規の職員・従業員」は震災前後で 15.9 ポイント下がっていた。「自営業主（自由業を含む）」は 7.8 ポイント下がっていた。一方で「無職（主婦・主夫を含む）」については震災前後で 27.3 ポイントあがった。

表 2.1.1 震災前の職業上の地位

	調査数	正規の職員・従業員	派遣社員	パート・アルバイト（契約社員、嘱託を含む）	会社などの役員	自営業主（自由業を含む）	家族従業者（農家や商店など自営業主の家族）	内職	無職（主婦・主夫を含む）	学生	無回答
全体	10013	36.5%	1.0%	8.2%	4.0%	14.3%	4.8%	0.3%	28.3%	0.5%	2.1%
檜葉町	1108	35.6%	1.2%	10.5%	2.3%	11.7%	4.6%	0.4%	30.6%	1.2%	1.9%
富岡町	2440	41.2%	0.9%	7.5%	4.8%	11.6%	3.6%	0.3%	27.7%	1.0%	1.3%
川内村	314	27.1%	1.6%	5.7%	3.8%	17.5%	5.1%	0.6%	34.4%	0.3%	3.8%
大熊町	1702	41.8%	1.2%	9.6%	4.3%	10.7%	4.0%	0.4%	26.1%	0.4%	1.6%
双葉町	1020	36.5%	1.2%	7.4%	3.5%	14.8%	5.7%	0.4%	28.5%	-	2.1%
浪江町	3029	32.6%	0.9%	8.2%	4.1%	18.2%	5.3%	0.3%	28.1%	-	2.4%
葛尾村	238	23.9%	0.8%	4.6%	2.1%	21.8%	12.6%	-	28.6%	1.7%	3.8%

表 2.1.2 現在の職業上の地位

	調査数	正規の職員・従業員	派遣社員	パート・アルバイト（契約社員、嘱託を含む）	会社などの役員	自営業主（自由業を含む）	家族従業者（農家や商店など自営業主の家族）	内職	無職（主婦・主夫を含む）	学生	無回答
全体	10013	20.6%	0.9%	6.9%	3.2%	6.5%	1.3%	0.7%	55.5%	0.2%	4.1%
檜葉町	1108	21.8%	1.0%	8.3%	2.3%	7.4%	2.2%	0.5%	52.7%	0.5%	3.4%
富岡町	2440	23.5%	0.8%	7.5%	4.0%	5.5%	0.8%	0.7%	53.4%	0.3%	3.5%
川内村	314	15.6%	1.6%	9.2%	3.8%	12.7%	4.5%	0.3%	45.5%	0.3%	6.4%
大熊町	1702	24.1%	1.2%	6.4%	3.6%	4.8%	0.9%	0.6%	54.3%	0.2%	3.8%
双葉町	1020	19.5%	0.6%	5.9%	2.6%	5.1%	1.3%	0.9%	60.4%	-	3.7%
浪江町	3029	17.1%	0.8%	6.3%	3.1%	7.7%	1.1%	0.7%	58.7%	0.0%	4.5%
葛尾村	238	19.3%	2.1%	8.4%	1.3%	9.7%	3.4%	0.4%	50.8%	0.8%	3.8%

2.2 業種

次に、従事している仕事の業種である。これも震災前後で回答を求めている。

震災前の業種では、「農林漁業」12.0%、「建設業」20.7%、「製造業」9.0%、「電気・ガス・水道業」9.3%、「運輸・通信業」3.5%、「卸売・小売・飲食店」7.2%、「金融・保険

業」1.4%、「不動産業」0.6%、「サービス業」15.2%、「公務」8.3%、「その他」10.9%、「無回答」2.1%、であった。

震災後の業種では、「農林漁業」5.8%、「建設業」22.3%、「製造業」8.3%、「電気・ガス・水道業」10.8%、「運輸・通信業」3.5%、「卸売・小売・飲食店」5.9%、「金融・保険業」1.4%、「不動産業」1.3%、「サービス業」14.2%、「公務」10.6%、「その他」13.8%、「無回答」2.1%であった。

震災前後で比較すると、「農林漁業」が6.2ポイントさがった。避難することにより、居住地を離れ、第一次産業に従事できないことを反映している。

表 2.2.1 現在の仕事業種

	調査数	農林漁業	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	運輸・通信業	卸売・小売・飲食店	金融・保険業	不動産業	サービス業	公務	その他	無回答
全 体	6886	12.0%	20.7%	9.0%	9.3%	3.5%	7.2%	1.4%	0.6%	15.2%	8.3%	10.9%	2.1%
檜葉町	731	10.4%	15.9%	11.8%	8.6%	4.5%	7.0%	2.5%	0.1%	16.8%	9.3%	10.9%	2.2%
富岡町	1699	6.4%	22.0%	8.8%	10.4%	3.2%	8.2%	1.2%	0.8%	17.2%	9.2%	10.9%	1.9%
川内村	191	22.0%	23.0%	3.7%	2.1%	1.6%	7.9%	1.0%	0.5%	9.9%	11.0%	15.2%	2.1%
大熊町	1218	8.9%	21.9%	7.2%	15.2%	2.5%	5.5%	0.8%	0.7%	16.7%	8.9%	9.9%	1.8%
双葉町	704	13.6%	17.2%	6.4%	13.6%	4.0%	6.3%	0.9%	0.4%	13.9%	9.7%	11.8%	2.3%
浪江町	2098	15.4%	21.8%	10.9%	5.2%	4.0%	7.9%	1.5%	0.5%	13.8%	6.0%	10.7%	2.2%
葛尾村	157	37.6%	18.5%	6.4%	2.5%	3.2%	3.8%	2.5%	-	7.6%	7.0%	8.3%	2.5%

2.3 同居していた人の人数

被災前に同居していた人数（本人を含む）について、数字で尋ねた結果が、図 2.3.1 である。この設問では半数以上が3人以下であり、市町村による差異も、葛尾村の世帯人数が多い以外はそこまで大きくはない。なお、この人数の平均値は3.3人であった。

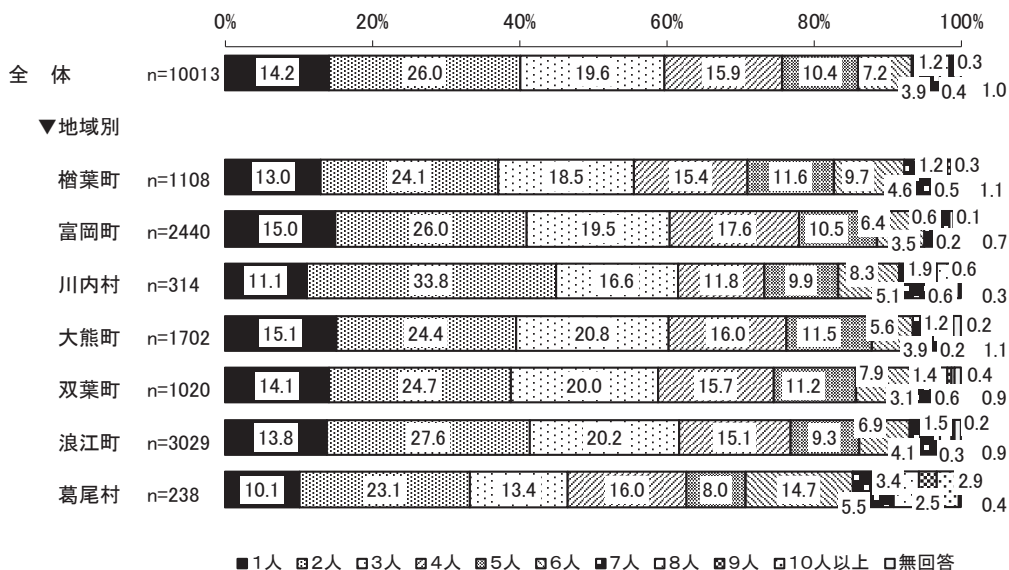


図 2.3.1 被災前に同居されていた方は、あなたを含めて何人でしたか

2.4 同居していた人の現状

他方で、被災前に同居していた人が現在どのような状況であったかを回答してもらった。ここでは、具体的に表形式で被災前に同居していた人の続柄、性別、年齢などを記入していただく形式を取ったが、図 2.4.1 はその表に回答者が何人記入したかをまとめたものである（0 レコードは無回答を意味する）。ここでの平均の記入人数は 2.98 人であり、前の設問とやや異なっているほか、無回答も 500 人ほどとなっており、本設問にそれなりの回答者負担があったことが示唆される。特に図 2.3.1 との比較から、この項目は世帯人数の多い回答者が十分に回答していただけなかった傾向が示唆される。なお、震災前住んでいた市町村別にみても前問と同じく、葛尾村以外は大きな差異はない。

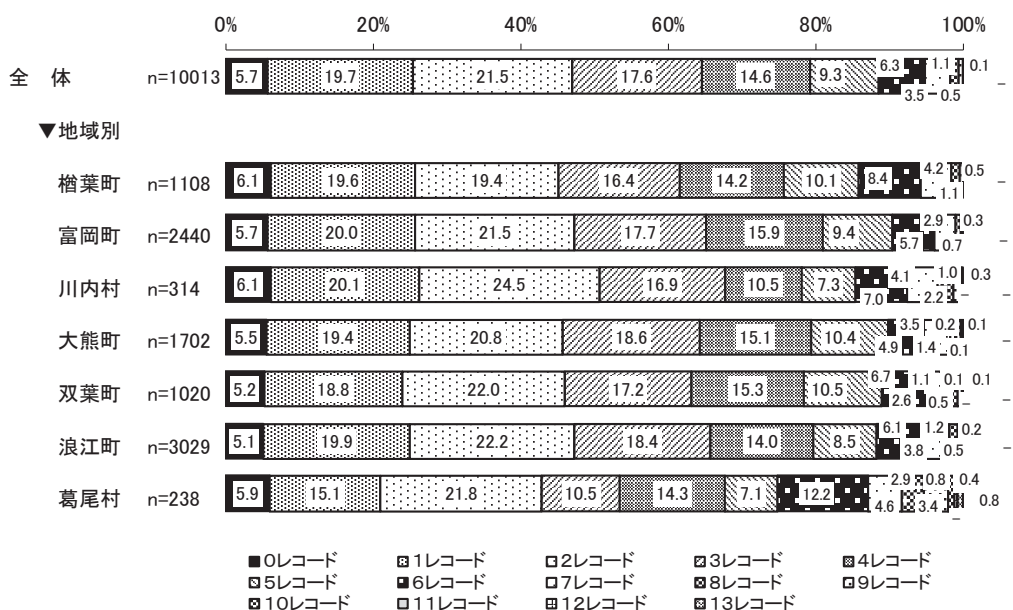


図 2.4.1 被災前に同居していた人の人数

ここでは、図 2.4.1 で回答いただいたサンプルに関して、現在の仕事や死亡もしくは別居した人が世帯内でどの程度いたかについて示す。なお算出上の都合から、ここでは同居人数が本人を含めて 7 人までの世帯を対象としてデータベースを作成した。この結果、記入していただいた総人数は全部で 30,457 人であった（本人を含む）。以降では、この 30,457 人を母集団とした分析結果を示したい。なおこのなかで、世帯主は 7,781 人であった。

はじめに、現在仕事を持っている人は全体の 37.2%であった（9,784 人）。また、世帯主のなかで仕事を持っている人の割合は 45.4%であった（3,536 人）。世帯主でも半数以上が仕事を持っていない。その年齢分布は図 2.4.2 のようになり、高齢者のみならず 60 歳以

下で仕事を持っていない回答者が多いことがわかった。なお、世帯主かどうかにかかわらず、仕事を持っている人と仕事を持たない人の年齢分布は図 2. 4. 3 および図 2. 4. 4 のような頻度分布となる。

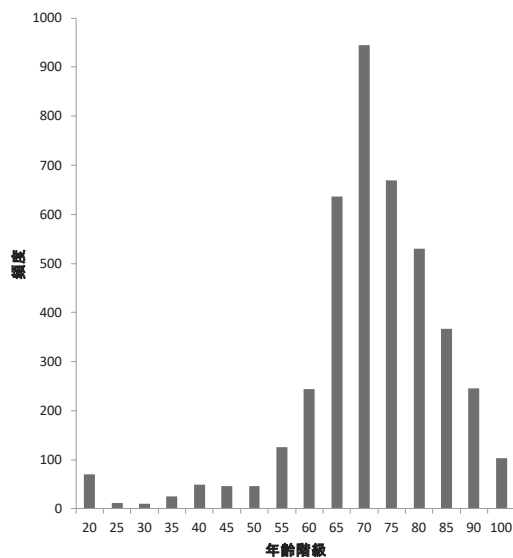


図 2. 4. 2 世帯主かつ仕事を持っていない人の年齢分布 (n=4131)

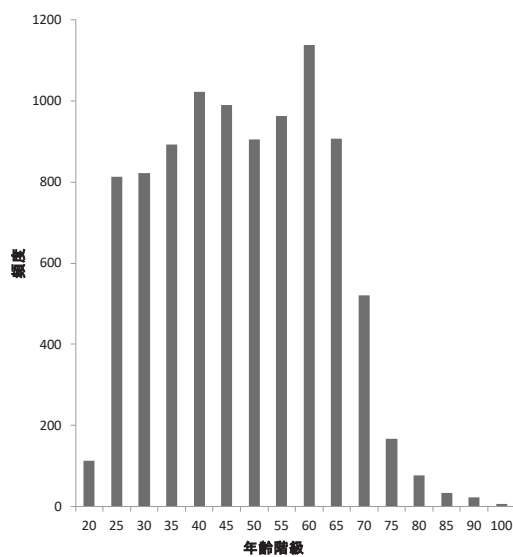


図 2. 4. 3 仕事を持っている人の年齢分布 (n=9395)

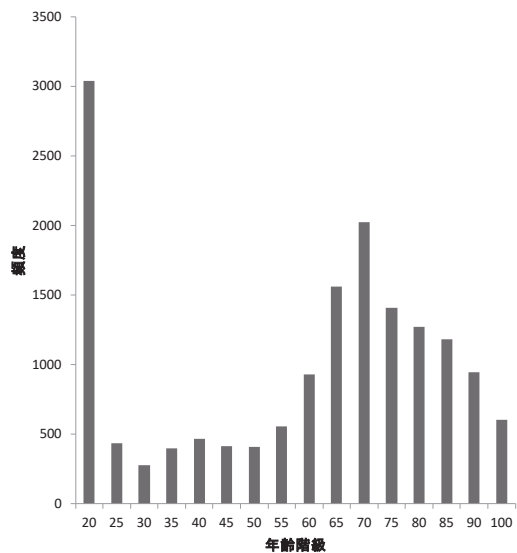


図 2.4.4 仕事を持っていない人の年齢分布 (n=15950)

次に、別居についてまとめる。回答いただいた全 30,457 人のうち、現在回答者と別居をしている人の数は 21.0% (6,383 人) であった。その年齢分布は図 2.4.5 のように示せ、進学や就職などで別居が考えられる若年層以外にも、別居をしている人が多いことが明らかになった。さらに、ここでは人数のみならず、震災前に同居していた人のうち、一人でも現在別居している人がいた世帯を抽出した。この結果、25.5%の世帯 (2,555 世帯) に別居者が一人でもいるということがわかった。

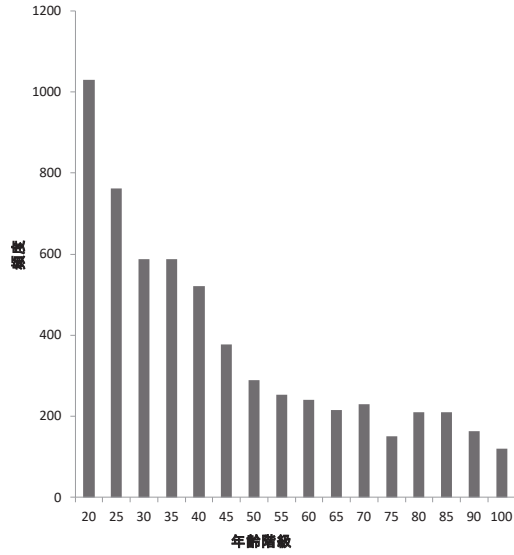


図 2.4.5 別居をしている人の年齢分布 (N=5953)

また、全 30,457 人で死亡していた人は 5.4%であった (1,658 人)。この年齢分布は、図 2.4.6 のように示せる。さらに、ここでは震災前に同居していた家族のうち、一人でも死亡した家族がいる世帯を抽出した。この結果、25.5%の世帯 (2,555 世帯) に死亡した家族が一人でもいるということがわかった。

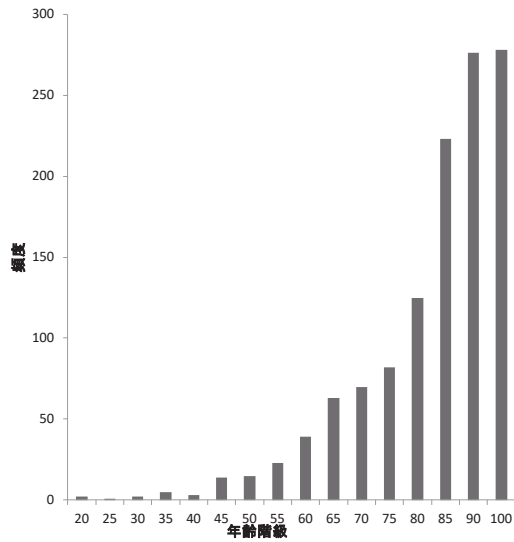


図 2.4.6 死亡した人の年齢分布 (N=1243)

2.5 現在の世帯の状況

最後に、現在の世帯の状況について示したものが図 2.5.1 から図 2.5.3 である。回答者のうち、65 歳以上の高齢者のみの世帯がいる世帯は全体の 32.4%であり、母子のみの世帯は 3.8%、単身世帯は 15.8%であった。ただし、本設問は無回答が多数を占める。無回答を除いてこれらの割合を算出した結果、65 歳以上の高齢者のみの世帯がいる世帯は全体の 41.4%であり、母子のみの世帯は 8.5%、単身世帯は 29.0%であった。地域差としては無回答を除くと、川内村が高齢世帯および母子世帯が多い。

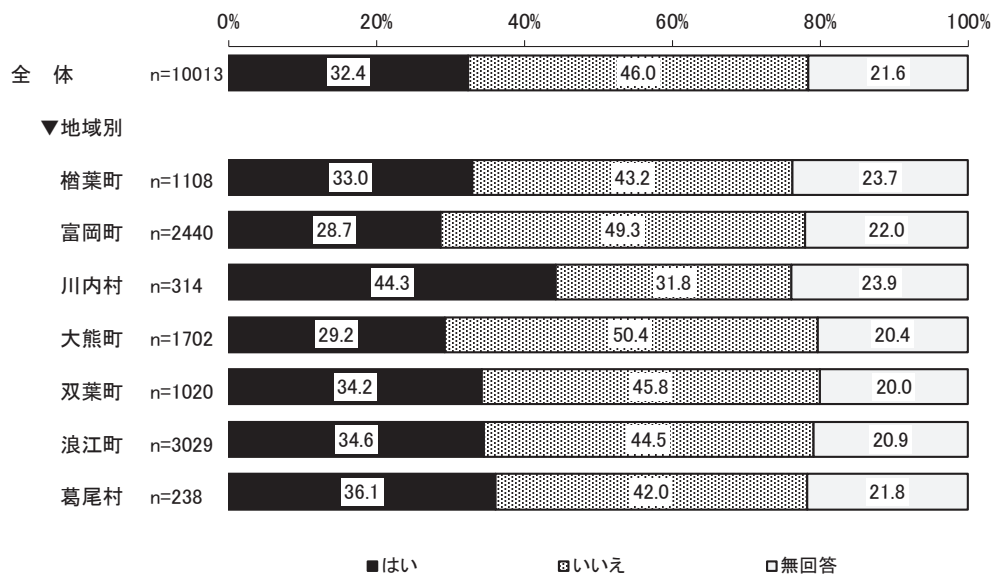


図 2.5.1 65 歳のみ世帯の割合

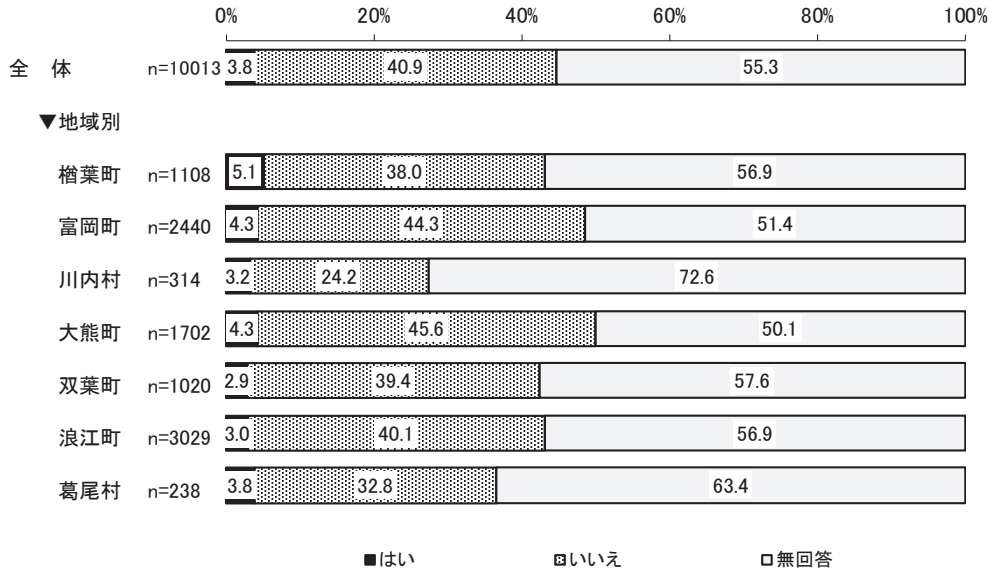


図 2.5.2 母子のみ世帯の割合

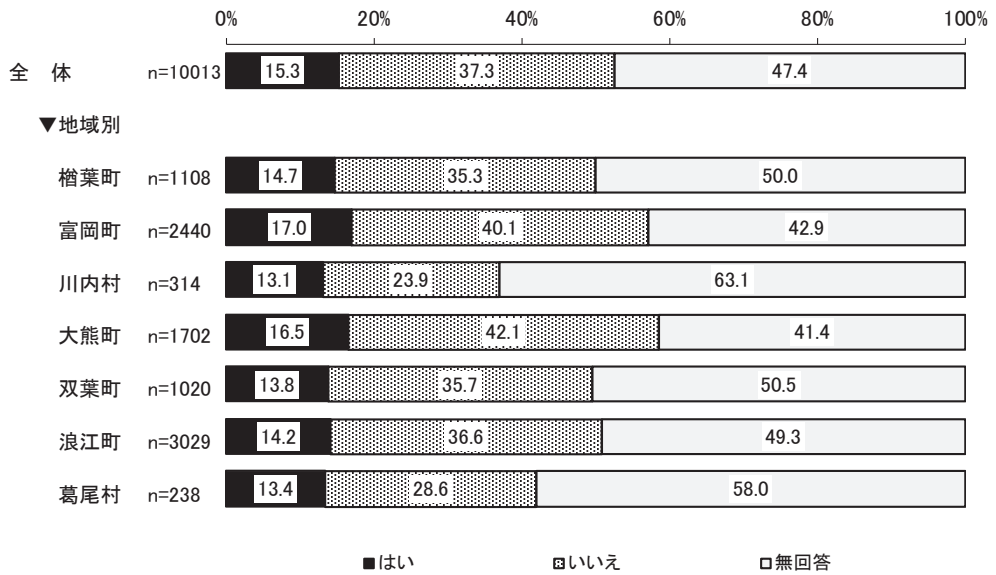


図 2.5.3 単身世帯の割合

なおこのうち、避難指示解除自治体についてこれらをクロス集計した結果、図 2.5.4 から図 2.5.6 のような傾向が見て取れた。これら世帯の状況は、震災時の場所に住んでいる回答者とそうでない回答者に違いがあることがわかった。

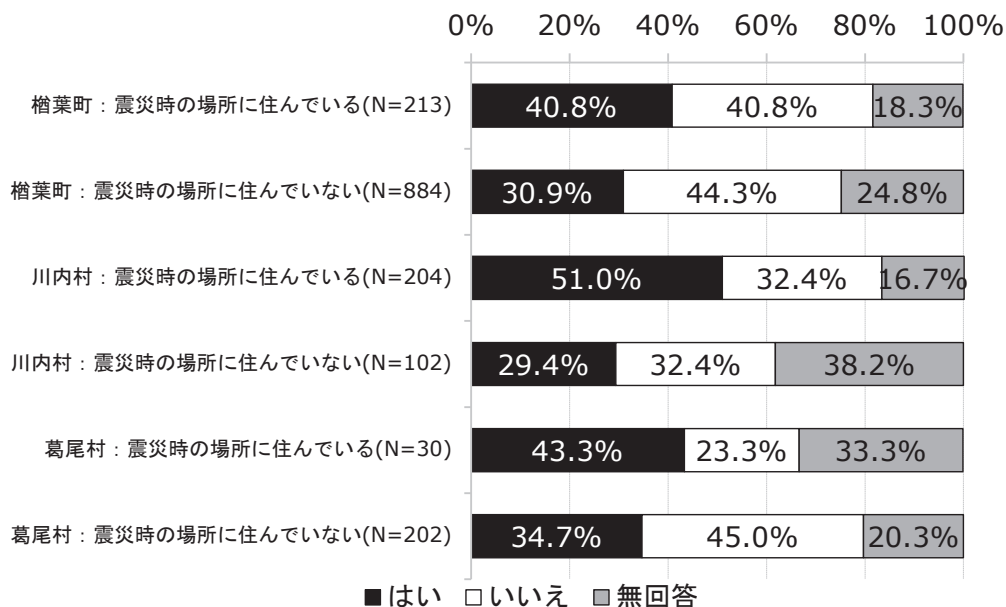


図 2.5.4 避難指示解除自治体の 65 歳のみ世帯の割合

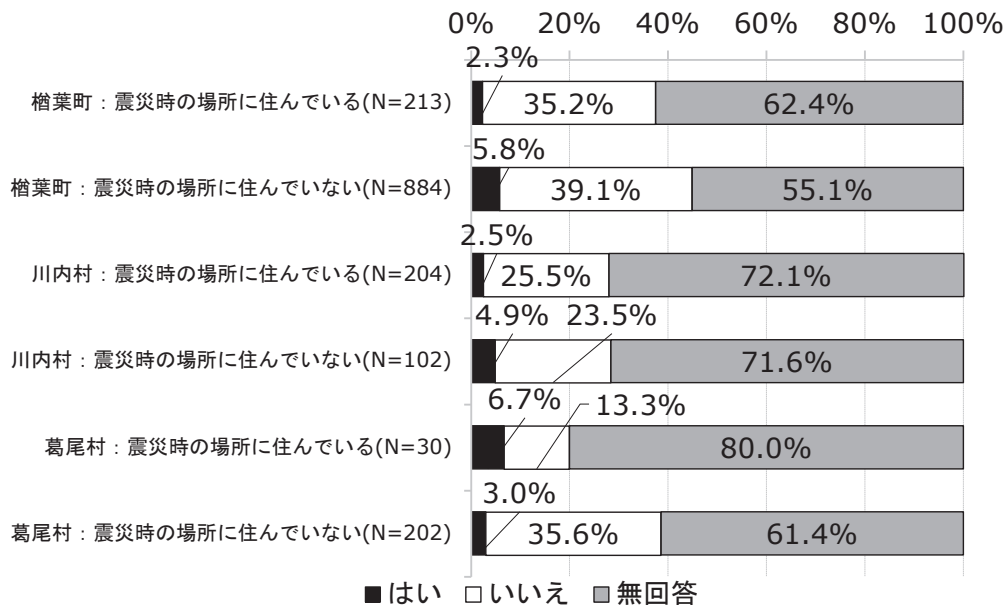


図 2.5.5 避難指示解除自治体の母子のみ世帯の割合

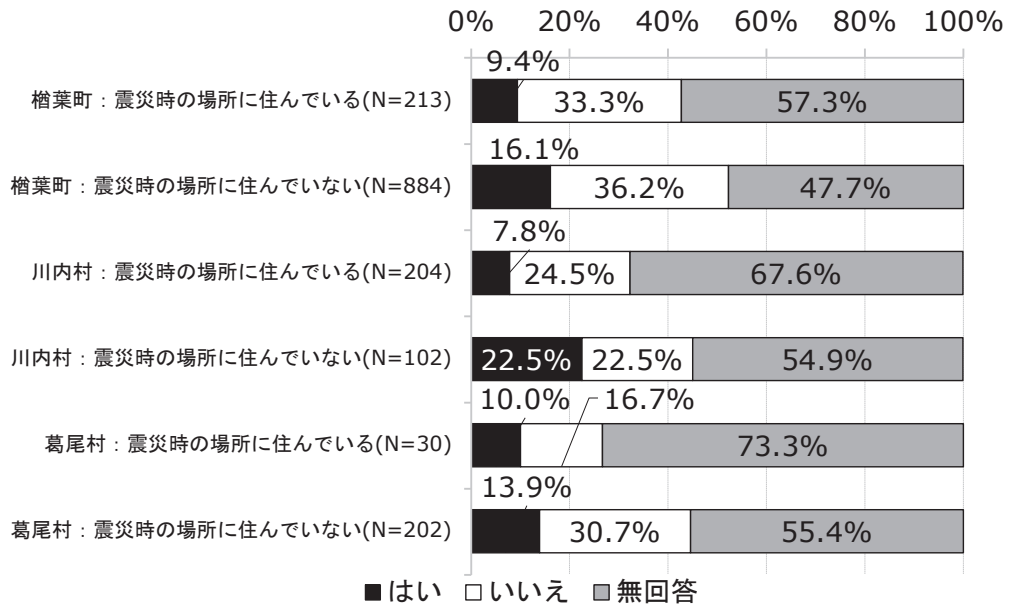


図 2.5.6 避難指示解除自治体の単身世帯の割合

3. 住居

3.1 震災時の住まい

震災時の住まいを示したものが図 3.1.1 である。ここでは震災時に双葉郡に住んでいなかった人はおらず、富岡町、大熊町、浪江町の回答者が多い。

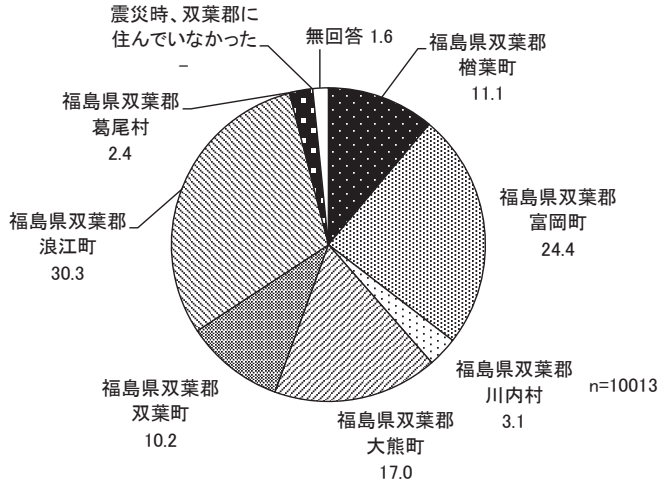


図 3.1.1 震災時のお住まいはどちらですか

3.2 震災時の住まいの避難区域

震災時の住まいを示したものが図 3.2.1 である。40.1%が帰還困難区域であり、居住制限区域が 23.8%、避難指示回準備区域が 25.4%である。

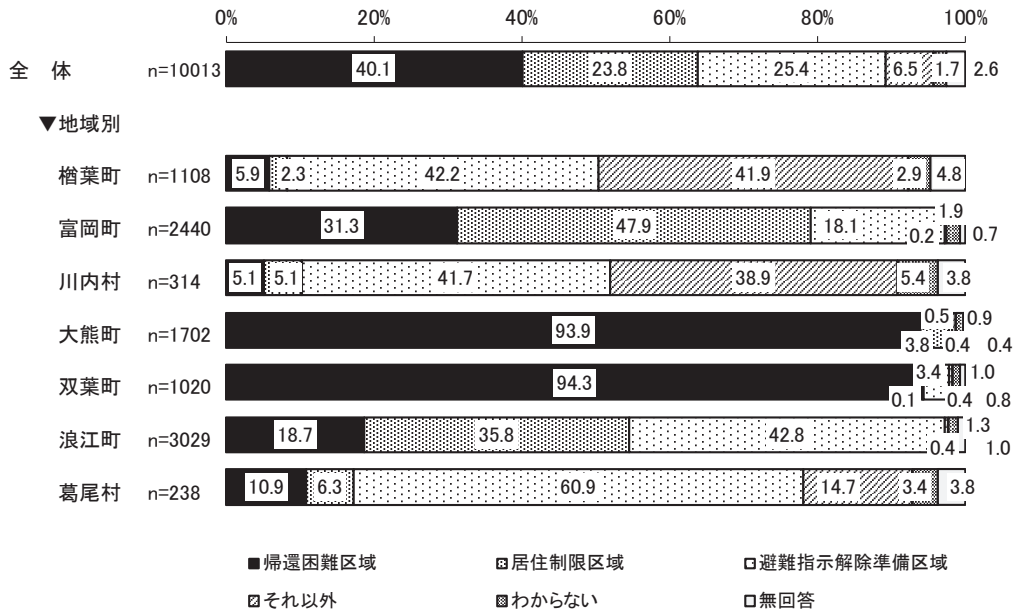


図 3.2.1 震災時の住まいの避難区域

■ 全体 □ 樺葉町 □ 高岡町 □ 川内村 □ 大熊町 □ 双葉町 □ 浪江町 □ 葛尾村

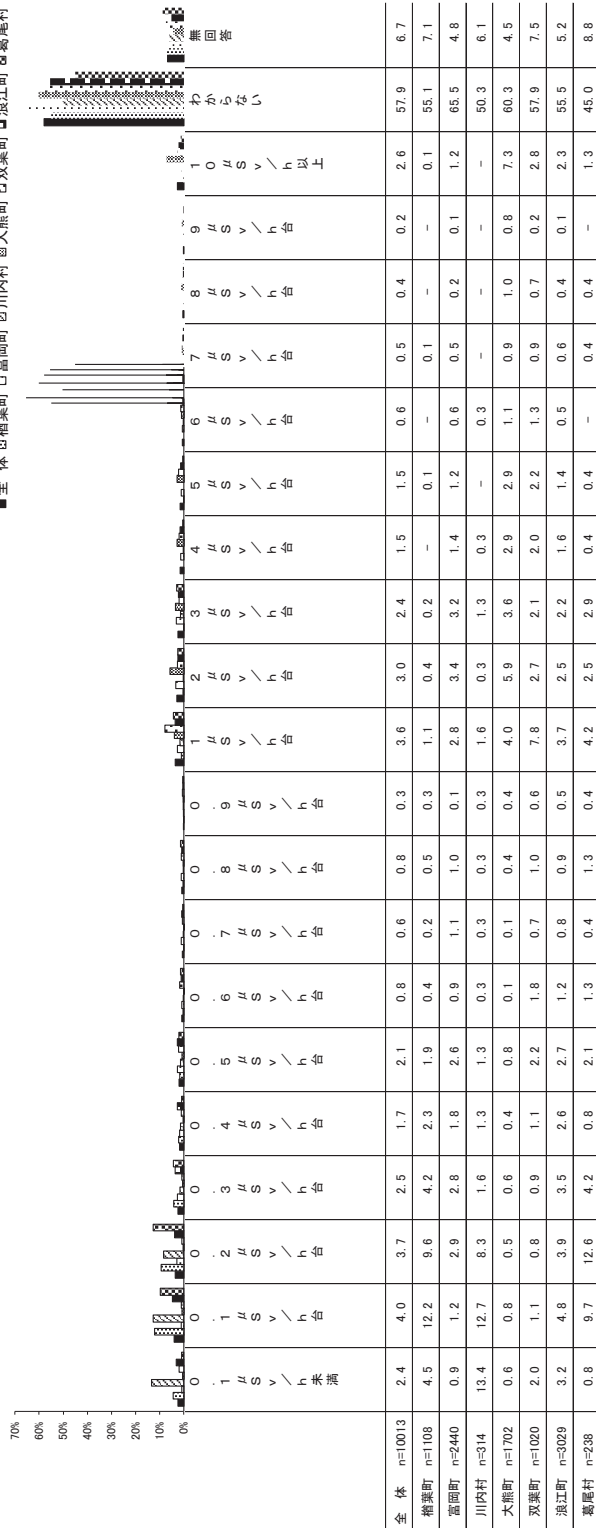


図 3.3.1 震災時の住まいの線量

3.3 震災時の住まいの線量

震災時の住まいの線量を示したものが、図 3.3.1 である。分からないという回答が 57.9%を占めるが、地域差としては大熊町に住んでいた人が大きい線量を記入している。

3.4 現在の住まいの種類

現在の住まいの種類を示したものが図 3.4.1 である。プレハブ仮設に居住している回答者は 7.7%であり、みなし仮設住宅は 16.8%であった。他方で、購入・再建した持ち家に住んでいる人が多く 45.0%、元々住んでいた持ち家に住んでいる回答者は 4.6%である。

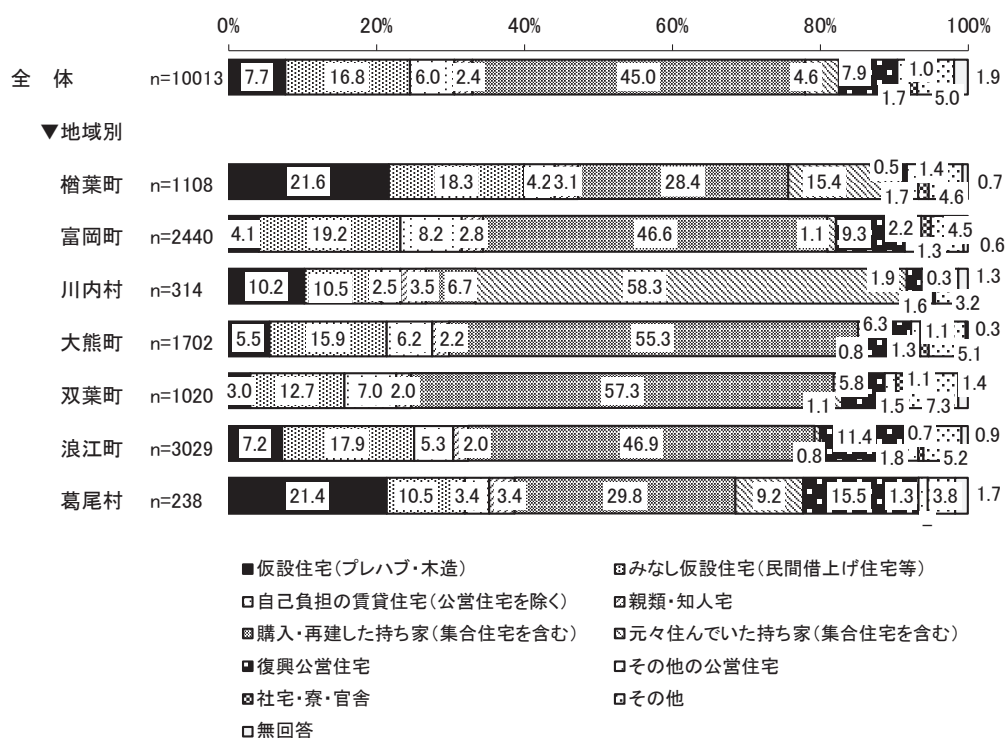


図 3.4.1 現在の住まいの種類

3.5 現在の住まい（震災時の場所か）

「現在、震災時の場所にお住まいですか」を問うた結果が、下記の図 3.5.1 である。全体として、「震災時の場所に住んでいない」が 94.2%と多く、「震災時の場所に住んでいる」は 4.5%と少ない。町村により「震災時の場所に住んでいる」の割合は大きく異なり、川内村では 65.0%、楢葉町では 19.2%、葛尾村では 12.6%となっている。富岡町、大熊町、双葉町、浪江町では、「震災時の場所に住んでいる」は 0%である。

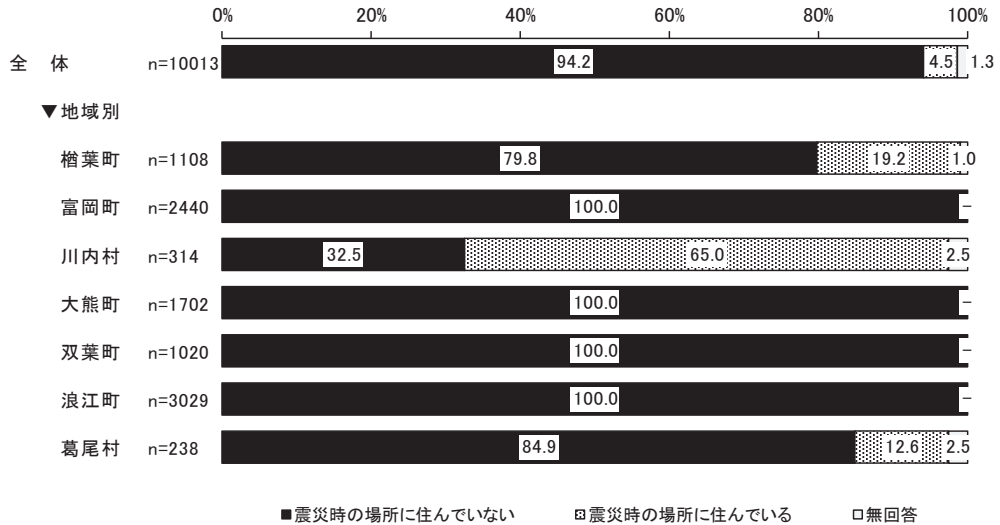


図 3.5.1 現在の住まい（震災時の場所か）

3.6 震災時の住まいの状況（震災時の場所に住んでいない回答を対象）

問 3 (5) で震災時の場所に住んでいないと回答した人を対象に、「震災時の住まいの状況」について問うた結果が下記の図 3.6.1 である。「修理しないと住めない状態」が 31.1%、「建て替えないと住めない状態」が 22.3%、と全体で半数程度の人々の震災時の住まいが居住に問題がある状態であることが分かった。「取り壊した」が 13.4%であり、「問題なく居住することができる」は 12.1%であった。

町村別に見ると、帰還が住んでいる川内村、檜葉町、葛尾村で、「問題なく居住できる」という回答の比率が高い傾向が見られた。川内村で「問題なく居住できる」は 40.2%にのぼり、調査時点で震災時の場所に住んでいない人も、帰還に向けて住まいの修理等を進めている状況がうかがわれる。

3.7 震災時の住まいへの通いの状況（震災時の場所に住んでいない回答を対象）

問 3 (5) で震災時の場所に住んでいないと回答した人を対象に、「震災時の住まいにどれくらいの頻度で通われていますか」と問うた結果が下記の図 3.7.1 である。全体として、月に 1 回程度以上通われているのが 26.3%、2~3 ヶ月に 1 回程度が 20.1%、半年に 1 回程度が 20.2%、年に 1 回程度が 24.9%という結果であった。

町村別に、月に 1 回程度以上通われている比率を見ると、帰還が進んでいる川内村で 56.8%、檜葉町で 49.8%、葛尾村で 62.4%と高い傾向であった。年に 1 回程度という比率を見ると、帰還が進んでいる川内村で 2.9%、檜葉町で 12.0%、葛尾村で 9.9%と低い傾向であった。

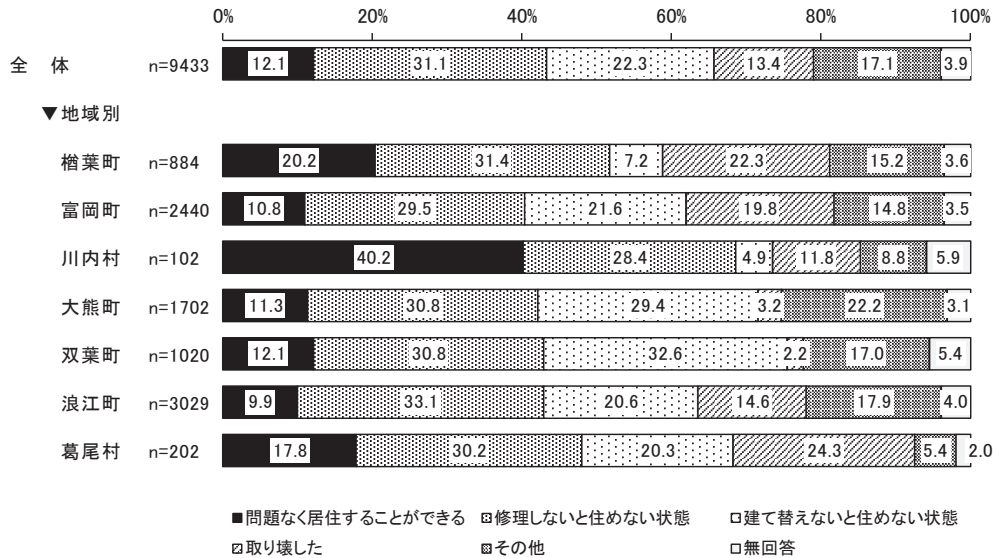


図 3.6.1 震災時の住まいの状況

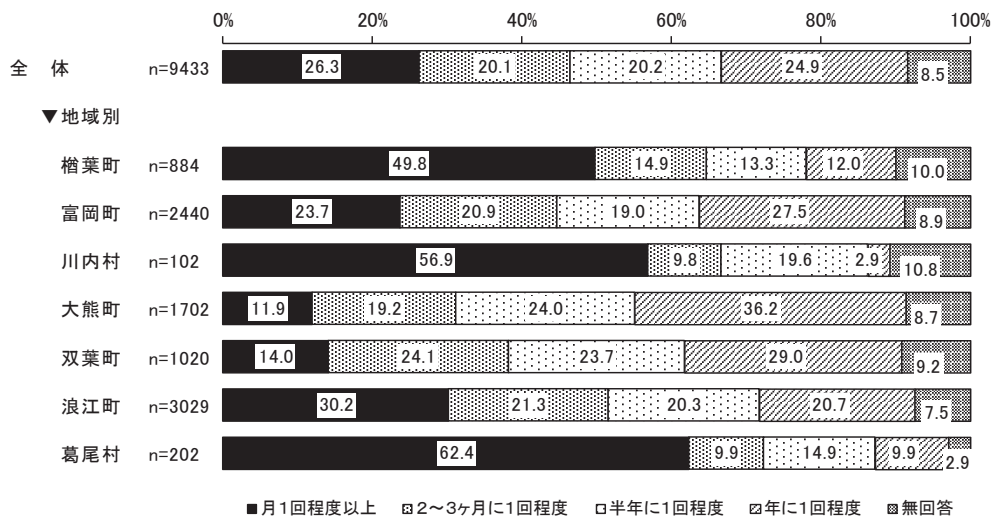


図 3.7.1 震災時の住まいへの通いの状況

3.8 現在の住まい（福島県内か県外か）

現在の住まいについて都道府県市区町村をたずねた問3(8)を福島県の中か外かという2値で集計した結果が下記の図3.8.1である。全体として、福島県内が73.1%、福島県外が24.1%という結果であった。町村により傾向に差が見られ、双葉町では福島県外が34.3%と多かった。双葉町では、事故後、役場の機能および多数の避難住民が埼玉県へ移

動していた経緯もあり、県外におられる方が多いものと考えられる。

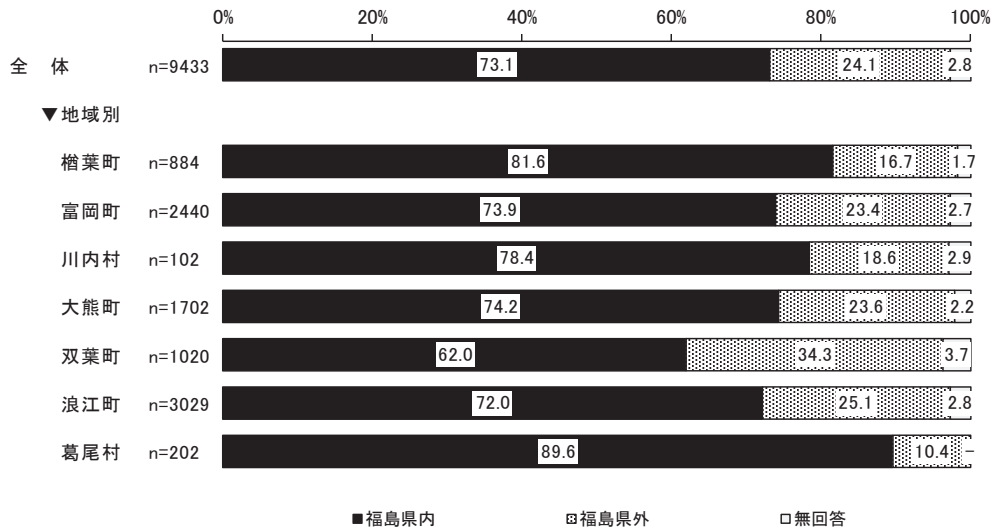


図 3.8.1 現在の住まい（福島県内か県外か）

3.9 帰還意向

「元の居住地に戻ろうとお考えですか」とたずねた結果が下記の図 3.9.1 である。全体として、「戻る気はない／戻れない」が 57.5%と最も多く、「まだ明確ではない／悩んでいる／わからない」が 19.7%、「将来戻りたい」が 10.4%、「近年中に戻りたい」が 6.8%と続く。

市町村別に見ると、「戻る気はない／戻れない」という回答は、大熊町で 69.4%、双葉町で 67.1%、富岡町で 60.2%と多い傾向が見られた。同回答は、川内村では 18.6%、檜葉町で 34.0%、葛尾村で 38.6%と少ない傾向であった。

「近年中に戻りたい」という回答は、川内村で 29.4%、檜葉町で 22.7%、葛尾村で 17.8%と多い傾向が見られ、「将来、戻りたい」という回答も、川内村で 16.7%、檜葉町で 16.2%、葛尾村で 17.8%と多い傾向が見られた。

「まだ明確ではない／悩んでいる／わからない」という回答は、2割程度であるが、大熊町と双葉町で 14%程度とやや少ない傾向が見られた。

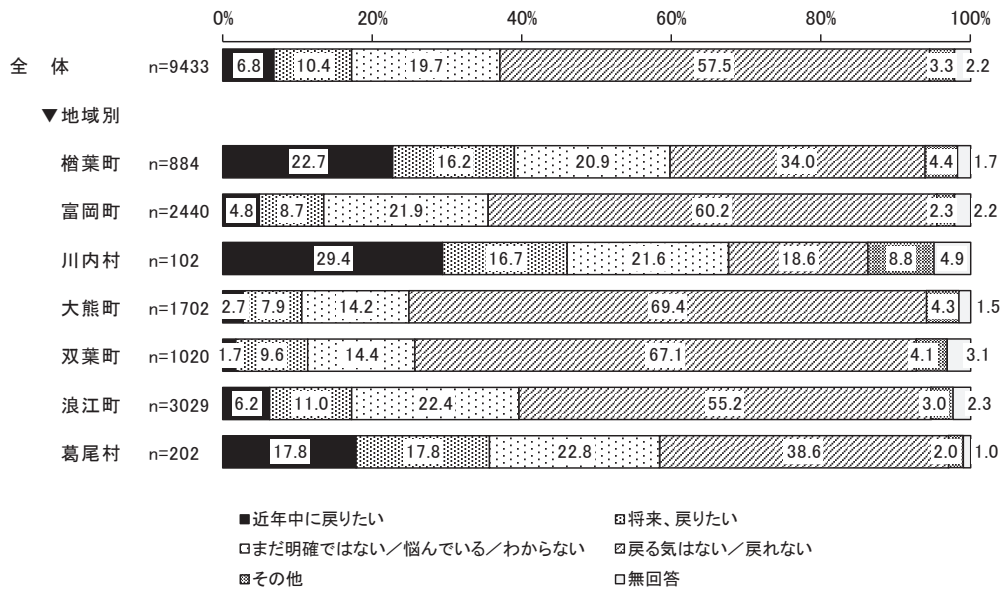


図 3.9.1 帰還意向

3.10 住まいの修理や再建の状況（震災時の場所に住んでいる回答を対象）

震災時の場所に住んでいる回答者を対象に、現在の住まいの修理や再建の状況について問うた結果が下記の図 3.10.1 である。

全体として、「震災後、修理をして住んでいる」が 67.4% ともっと多く、「震災時のまま、修理をしないで住んでいる」は 16.6%、「震災後、建て直して住んでいる」は 8.2% と少なかった。

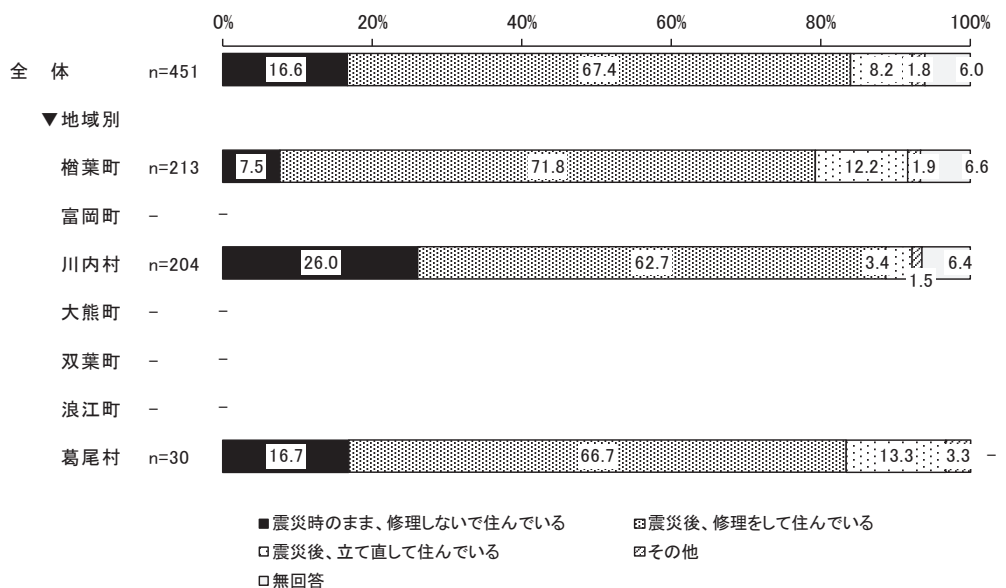


図 3.10.1 住まいの修理や再建の状況

4. 健康

4.1 健康状態

健康状態について5段階でたずねた結果が図4.1.1である。全体として、「ふつう」が46.1%と最も多く、「やや悪い」が27.9%、「悪い」が8.9%と続く。「良い」は8.3%、「やや良い」は5.4%と少なかった。

町村別に見ると、浪江町で「やや悪い」や「悪い」がやや多い傾向が見られた。葛尾村や川内村で「やや悪い」や「悪い」がやや少ない傾向が見られた

同様の設問が、国民生活基礎調査でも行われているが、平成28年の大規模調査結果によると、「よい」が20.7%、「まあよい」が17.8%、「ふつう」が47.0%となっており、「あまりよくない」が11.2%、「よくない」が1.8%と続く。

平成28年国民生活基礎調査で、6歳以上の者（入院者、熊本県を除く）の健康意識の構成割合をみると、「あまりよくない」と「よくない」あわせて13.0%であったのに対して、ほぼ同時期に行われた東日本大震災時に双葉地方に居住していた方を対象とした本調査結果では「やや悪い」と「悪い」をあわせて37.8%と3倍近い比率となった。

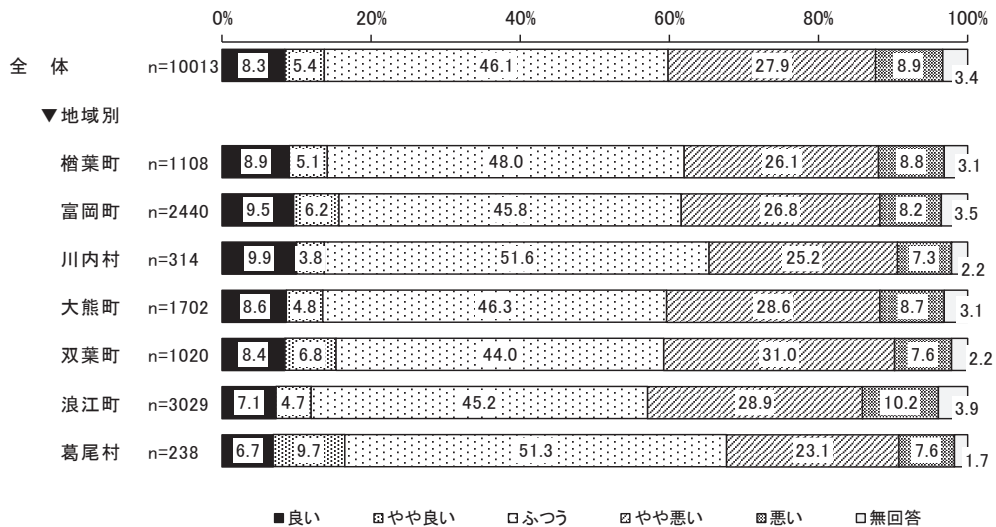


図 4.1.1 健康状態

4.2 精神的健康状態

WHO-5 精神的健康状態表の5つの回答の数字を合計した粗点を求めると²、事故直後の2011年12月に実施された第1回調査では、精神的健康状態が低いこと示し、うつ病のためのテストの適応となる13点未満が、7割を超え、粗点の平均は7.4であった。調査時点や調査対象が異なるが、他の調査では平均15～16となっており³、精神的健康状態が相当地に良くない状態であることが分かる。

2017年2月に実施された第2回調査では、13点未満が6割と依然多いが、粗点の平均は10.6であった。他の調査に比べると低い値であるが、第1回調査時点から3.2点ほど上昇した結果となった。

この精神的健康状態は、回答者年齢や避難先の住居種別などにより、状況が異なる。第2回調査結果について、回答者年齢で見ると、29歳以下では、平均14.2と高く、70歳代以上では9.6と低い。住居種別では、「社宅・寮・官舎」の方が平均13.0、「元々住んでいた持ち家」の方が12.7と高いことが特徴的であった。反対に、一般的な行政による住宅対策である「仮設住宅」では8.9、「復興公営住宅」でも9.2と低い。避難先が県内か県外であるかによるスコアの差は小さい結果であった。

第2回調査では、第1回調査に比べて精神的健康状態のスコアが上昇しているが、依然低い水準であり、メンタルケアなどソフト面の対策の重要性が窺われる。特に、「復興公営住宅」においても「仮設住宅」とほぼ同様の精神的健康状態のスコアであること、また、県外避難者も県内避難者と同様の精神的健康状態スコアであることに留意が必要と考えられる。

² 計算方法等は、WHO-5 精神的健康状態表（1998年版）を参照。

[http://www.med.oita-u.ac.jp/oita-lcde/WHO-5\[1\].pdf](http://www.med.oita-u.ac.jp/oita-lcde/WHO-5[1].pdf)（2020年1月25日最終閲覧日）

³ 参考にした文献は以下の通り。

S.AWATA et al:「Reliability and validity of the Japanese version of the World Health Organization-Five Well-Being Index in the context of detecting depression in diabetic patients」Psychiatry and Clinical Neurosciences, 61, 112-119, 2007.

井藤佳恵他:「大都市在住高齢者の精神的健康度の分布と関連要因の検討」日老医誌: 49 (1), 82-89, 2012. 財団法人日本公衆衛生協会:「介護予防事業の推進に関する調査研究事業報告書」, 2012. 3.

表 4.2.1 WHO-5 精神的健康状態スコアおよび他調査との比較

		第1回調査(2011.9.)			第2回調査(2017.2.)		
		平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
全体		7.4	5.9	12,844	10.6	6.4	9,140
回答者年齢	29歳以下	10.4	6.3	561	14.2	6.3	149
	30歳代	8.5	5.9	1,442	13.0	6.0	578
	40歳代	7.4	5.6	1,831	11.5	6.1	987
	50歳代	6.9	5.6	3,096	10.5	6.2	1,547
	60歳代	6.9	5.9	3,214	10.6	6.4	2,961
	70歳代以上	7.3	6.1	2,655	9.6	6.4	2,918
	住居種別	避難所	7.0	6.1	489	-	-
仮設住宅		6.9	5.7	2,220	8.9	6.2	681
親戚・知人宅		9.1	6.4	1,197	10.5	6.5	219
自治体が借り上げている住宅		7.1	5.7	6,219	10.1	6.3	1,606
自己負担の賃貸住宅		8.0	6.1	1,264	10.9	6.4	577
購入・再建した持ち家(集合住宅を含む)		-	-	-	11.0	6.3	4,293
元々住んでいた持ち家(集合住宅を含む)		-	-	-	12.7	6.4	408
復興公営住宅		-	-	-	9.2	6.3	708
その他の公営住宅		-	-	-	9.7	6.6	165
社宅・寮・官舎		-	-	-	13.0	6.7	105
その他		7.6	6.1	1,370	9.9	6.6	273
※※※		福島県内	7.3	5.9	8,795	10.3	6.3
	福島県外	7.6	6.0	3,976	10.8	6.5	2,136
別調査	S.Awata et al(2007)*	15.5	6.1	129			
	井藤他(2012)**	15.6	6.1	1,954			
	日本公衆衛生協会(2012)***	16.2	6.1	11,011			

* 回答者年齢は、平均53.6歳、最小値25歳、最大値73歳。 ** 東京都A区在住の65歳以上の全高齢者のうち、4月～9月生まれで、高齢者施設入所中の者を除いた人が対象。 *** 東京都板橋区在住で65歳から79歳までの人が対象。

5. 賠償

5.1 現在の生活のやりくり

「現在の生活設計は何でやりくりされていますか」を複数回答で問うた結果が、下記の図 5.1.1 である。全体として、「賠償金」が最も多く、回答者に高齢者が多いことから「年金・恩給」がそれに次いでいる。さらに、「勤労収入」「預貯金」などが続く。預貯金の取り崩しが3割近くにのぼっていることは注目してきたい。

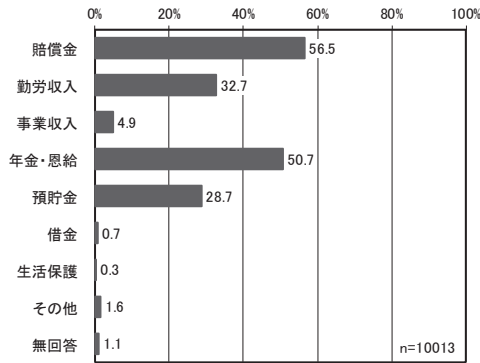


図 5.1.1 現在の生活のやりくり

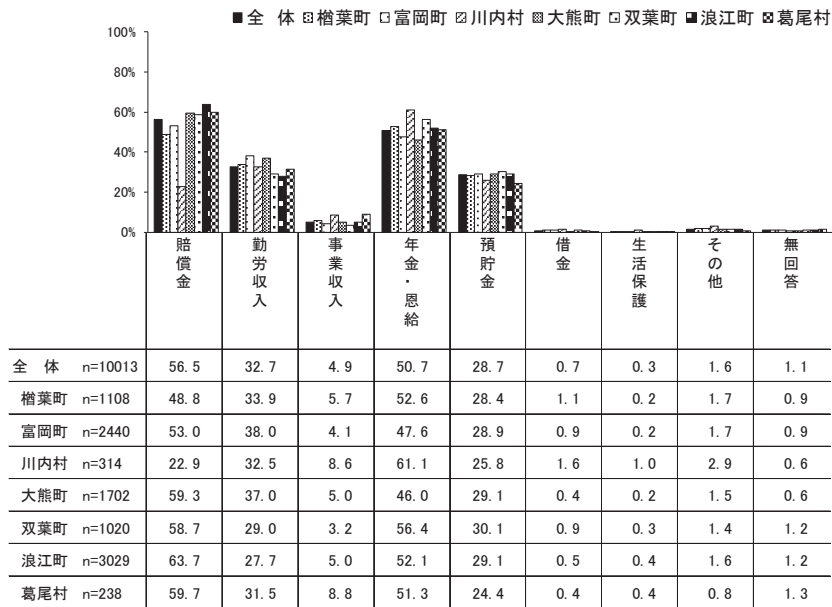


図 5.1.2 現在の生活のやりくり（町村別）

これを町村別にみたのが図 5.1.2 である。川内村では、「賠償金」という回答が 22.9%と非常に低くなっている。これは、川内村の多くが旧緊急時避難準備区域であり、他の避難

指示区域との間で賠償額に大きな格差があることを反映している。

5.2 経済的不安

「今後の生活について、あなたは経済的に不安を感じていますか」と問うた結果が下記の図 5.2.1 である。「とても不安を感じている」(33.9%)、「ある程度不安を感じている」(40.5%)を合わせて、全体で7割以上の方が「不安を感じている」と答えた。

町村ごとにみると若干の違いはあるが、7割以上が「不安を感じている」と答えていることは共通している。避難指示解除自治体について、居住地が避難元か避難先かで分けてみると、とくに檜葉町では「震災時の場所に住んでいる」人の不安感が低くなっている(表 5.2.1)。

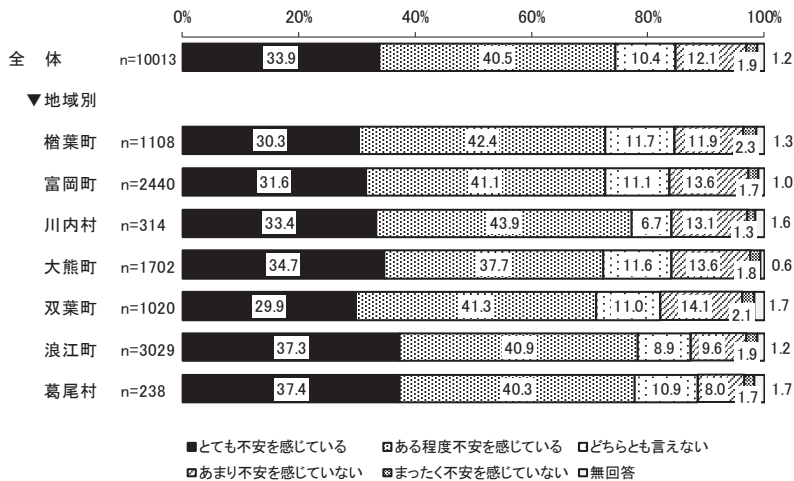


図 5.2.1 経済的不安

表 5.2.1 経済的不安 (避難指示解除自治体)

	調査数	とても不安を感じている (%)	ある程度不安を感じている (%)	どちらとも言えない (%)	あまり不安を感じていない (%)	まったく不安を感じていない (%)	無回答 (%)
檜葉町:震災時の場所に住んでいる	213	38	85	33	45	9	3
檜葉町:震災時の場所に住んでいない	884	292	382	96	87	16	11
川内村:震災時の場所に住んでいる	204	62	90	14	31	3	4
川内村:震災時の場所に住んでいない	102	40	44	7	9	1	1
葛尾村:震災時の場所に住んでいる	30	13	11	3	2	1	-
葛尾村:震災時の場所に住んでいない	202	74	84	22	16	2	4

5.3 医療費等の減免措置がなくなることへの不安

「あなたは将来、医療費や介護サービス利用料の減免がなくなることへの不安を感じていますか」と問うた結果が下記の図 5.3.1 である。「とても不安を感じている」(57.7%)、「ある程度不安を感じている」(28.1%)を合わせて、全体で8割以上の方が「不安を感じている」と答えた。「とても不安を感じている」という回答だけでも6割近い。

町村ごとにみると若干の違いはあるが、「とても不安を感じている」が最も多く、「ある程度不安を感じている」と合わせて、8割以上が「不安を感じている」と答えていることは共通している。とくに川内村、浪江町、葛尾村では「不安を感じている」人の割合が9割近くに達している。図表は省略するが、楢葉町では「震災時の場所に住んでいる」人の不安感が低くなっている(「とても不安を感じている」「ある程度不安を感じている」の合計が、「震災時の場所に住んでいる」人は77.0%、「震災時の場所に住んでいない」人は86.3%)

年齢別就業状況とのクロスでは、年齢が高く、就業していない場合に不安感が高くなる傾向がみてとれる(表 5.3.1)。

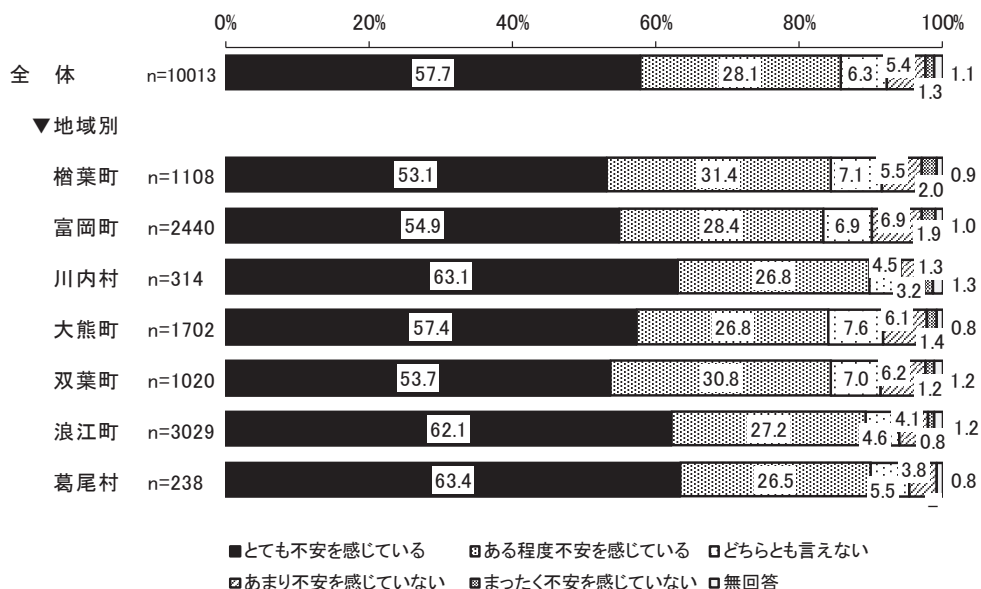


図 5.3.1 医療費等の減免措置がなくなることへの不安

表 5.3.1 医療費等の減免措置がなくなることへの不安（年代別就業状況とのクロス）

	調査数	とても不安を感じている	ある程度不安を感じている	どちらとも言えない	あまり不安を感じていない	まったく感じていない	無回答
64歳以下:就業者	3,088 100.0	1,487 48.2	899 29.1	296 9.6	287 9.3	89 2.9	30 1.0
64歳以下:非就業者	1,521 100.0	916 60.2	421 27.7	87 5.7	70 4.6	15 1.0	12 0.8
65歳以上:就業者	913 100.0	539 59.0	268 29.4	46 5.0	40 4.4	9 1.0	11 1.2
65歳以上:非就業者	4,024 100.0	2,539 63.1	1,123 27.9	179 4.4	126 3.1	17 0.4	40 1.0

5.4 賠償終了に対する不安

「政府や東京電力は、継続的な賠償金の支払いを、今後1～2年程度でおおむね終了していく方針を示しています。これについてあなたは不安を感じていますか」と問うた結果が下記の図 5.4.1 である。「とても不安を感じている」(54.4%)、「ある程度不安を感じている」(24.1%)を合わせて、全体で8割近い人が「不安を感じている」と答えた。「とても不安を感じている」という回答だけでも半数を超えている。

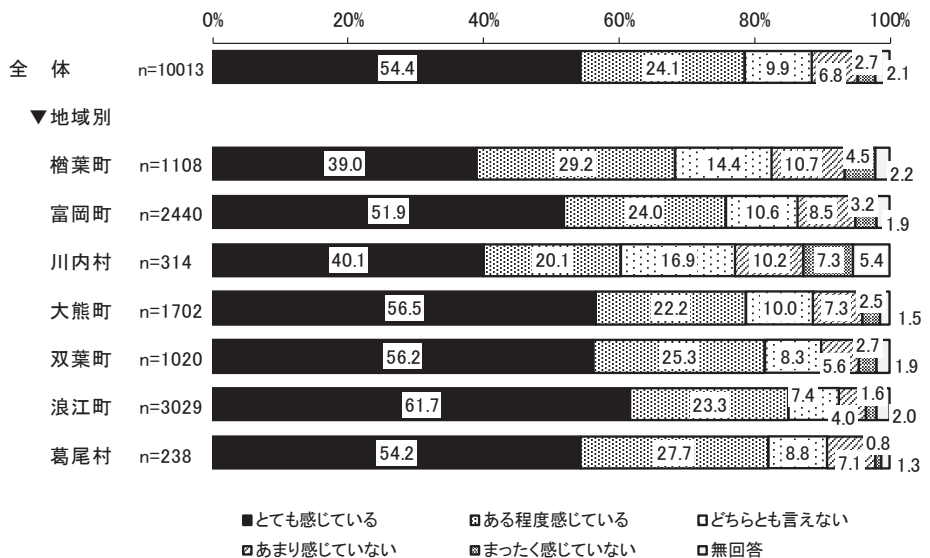


図 5.4.1 賠償終了に対する不安

町村別にみると、檜葉町と川内村では「不安を感じている」人の割合がやや低くなって

いる。これらの避難指示解除自治体では、「震災時の場所に住んでいる」人の不安感が低くなっている（表 5.4.1）

表 5.4.1 賠償終了に対する不安（避難指示解除自治体）

	調査数	とても不安を感じる	ある程度不安を感じる	ない	どちらとも言えない	あまり不安を感じていない	まったく不安を感じない	無回答
楢葉町：震災時の場所に住んでいる	213	65	52	35	41	15	5	
	100.0	30.5	24.4	16.4	19.2	7.0	2.3	
楢葉町：震災時の場所に住んでいない	884	360	270	123	77	35	19	
	100.0	40.7	30.5	13.9	8.7	4.0	2.1	
川内村：震災時の場所に住んでいる	204	62	45	44	26	17	10	
	100.0	30.4	22.1	21.6	12.7	8.3	4.9	
川内村：震災時の場所に住んでいない	102	60	17	9	5	6	5	
	100.0	58.8	16.7	8.8	4.9	5.9	4.9	
葛尾村：震災時の場所に住んでいる	30	14	9	2	4	1	-	
	100.0	46.7	30.0	6.7	13.3	3.3	-	
葛尾村：震災時の場所に住んでいない	202	113	55	18	12	1	3	
	100.0	55.9	27.2	8.9	5.9	0.5	1.5	

5.5 賠償に関する困りごと

「賠償に関する困りごと」を複数回答で問うた結果が、下記の図 5.5.1 である。「請求書類や手続きが煩雑だ」が 48.9%、「賠償額が少ない」が 46.5%、「東京電力と国が賠償額を決めてしまう」が 45.2%、「地域によって賠償に差がある」が 42.0%などとなっている。

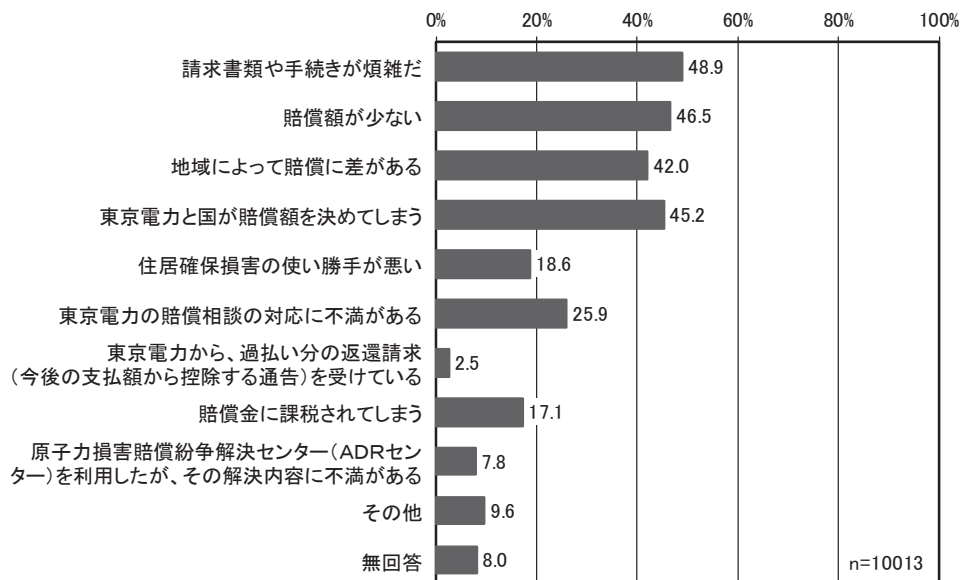


図 5.5.1 賠償に関する困りごと

これを町村別にみたのが図 5.5.2 である。川内村では「請求書類や手続きが煩雑だ」「賠償額が少ない」が全体よりも低く、「地域によって賠償に差がある」が全体よりきわめて高くなっている。これは、川内村の大半が旧緊急時避難準備区域であり、一部に旧避難指示区域も含まれていることから、村内で賠償額に大きな格差があることを反映していると考えられる。なお、檜葉町でも「賠償額が少ない」が全体よりも低い。

「地域によって賠償に差がある」と回答した人の割合は、川内村が最も多く 71.0%であり、浪江町 56.8%、富岡町 46.6%、檜葉町 41.6%、葛尾村 40.8%、大熊町 20.1%、双葉町 16.7%となっている。大熊町・双葉町は区域にかかわらず賠償の扱いが一律にされている場合が多いので、区域内の賠償格差が大きいほど、この点での不満も大きくなっていることがわかる。浪江町で全体に比べ不満がやや高くなっている理由ははっきりしないが、請戸のように津波で住居が被害を受けた場合はその程度に応じて賠償が減額されることや、多くの住民が集団 ADR 申し立てに参加していることなどの影響も推察される。

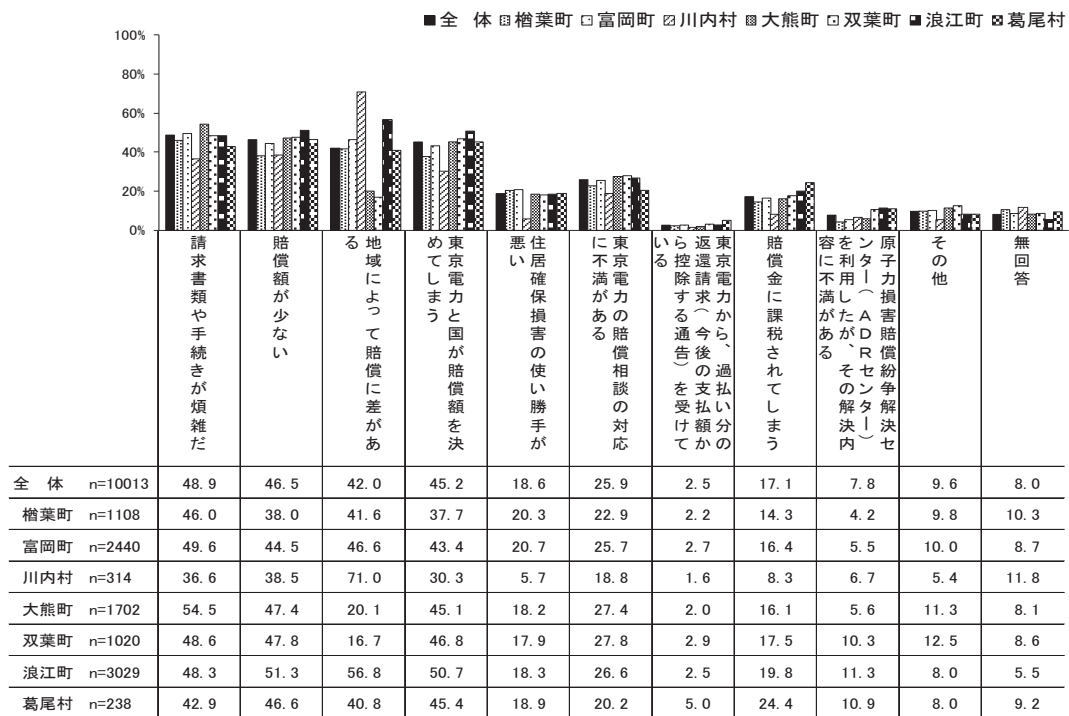


図 5.5.2 賠償に関する困りごと（町村別）

6 生活

本章では現在の生活や暮らしの状況について述べる。具体的には生活の困りごと、生活時間の変化、心配事を聞いてくれる人の存在、行政やメディアのなどへの信頼度に関する調査結果である。

6.1 現在の生活で困っていること

まず、「あなたは現在の生活においてお困りのことはありますか」を複数回答で問うた。その結果が図 6.1.1 である。

全体として、「健康や介護」が困っていることとして最もあげられている。この項目に関して、町村ごとに大きな違いがみられなかった。次いで困っていることとして多い回答の「生活費」は川内村が高い一方(42.0%、n=314)、双葉町や檜葉町は比較すると低い(30.2%、n=1020 と 31.2%、n=1108)。また、「放射線の影響」に関しては比較的、町村ごとに差がみられた。福島第一原子力発電所が立地していた大熊町と双葉町は低く(それぞれ 15.3%、n=1702 と 16.3%、n=1020)、一方で、距離的に離れている檜葉町、川内村、葛尾村の方が困っている人の割合が高かった(それぞれ 26.2%、n=1108 と 23.9%、n=314 と 26.1%、n=238)。これは、この3町村はすでに避難指示解除準備区域ならびに居住制限区域が解除され、実際に住んでいる人が存在することが影響していると考えられる。さらに、川内村は「周りの人との人間関係」で困っている人の割合が低かった。これも、他の町村と比較して、帰還して住んでいる人の割合が多いことが影響していると考えられる。

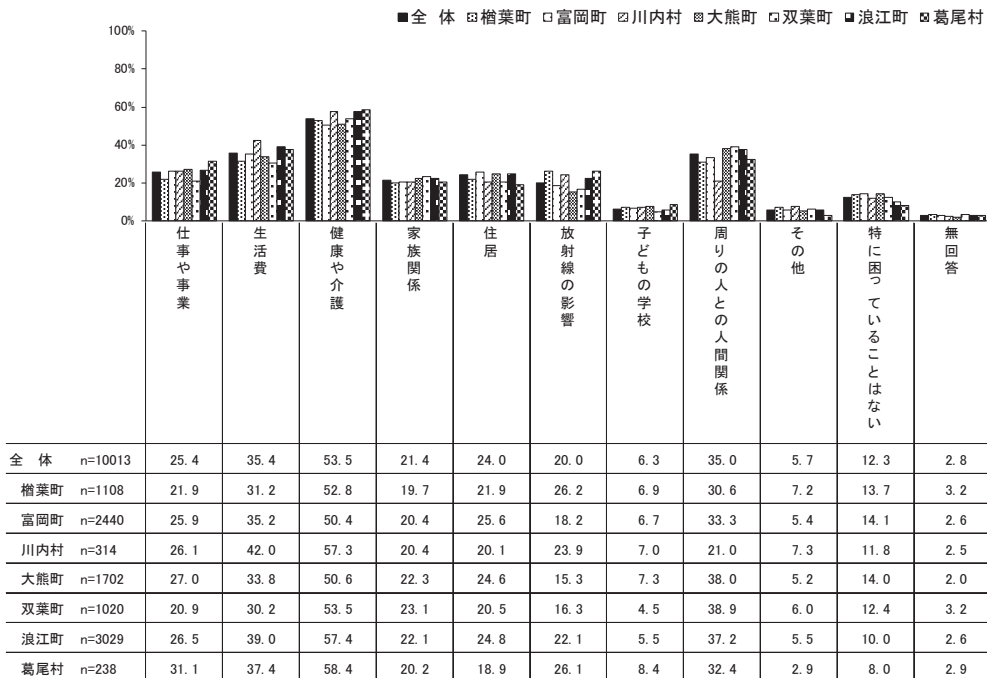


図 6.1.1 現在の生活で困っている事柄（町村別）

6.2 生活時間の变化

次に「以下の活動は、震災前と比べて増えましたか。それとも減りましたか」と問うた結果が図 6.2.1 である。

全体で震災前と比較して増えた、と答えた人が多かったのは「移動（通勤・通学を除く）」「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」「受診・療養」である。一方で、減った、と答えた人が多かったのは「仕事」「趣味・娯楽」「交際・つきあい」である。

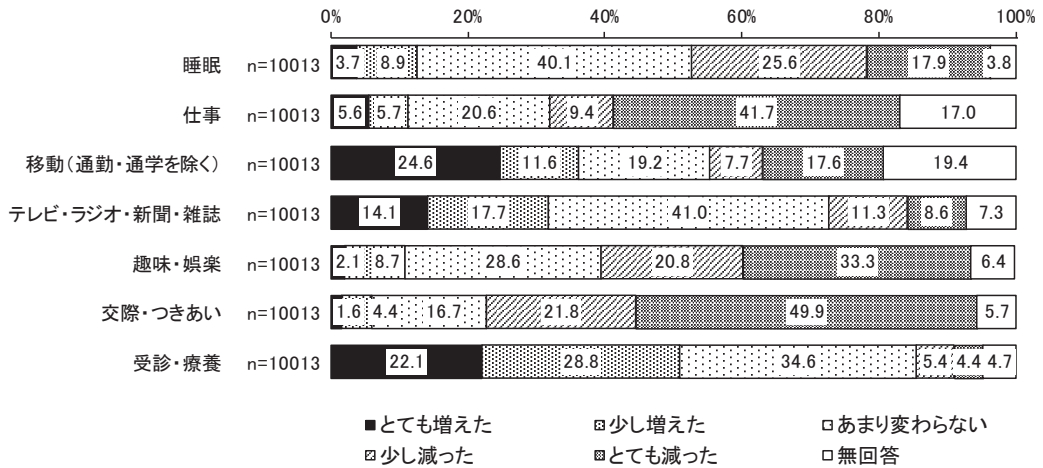


図 6.2.1 生活時間の増減（全体）

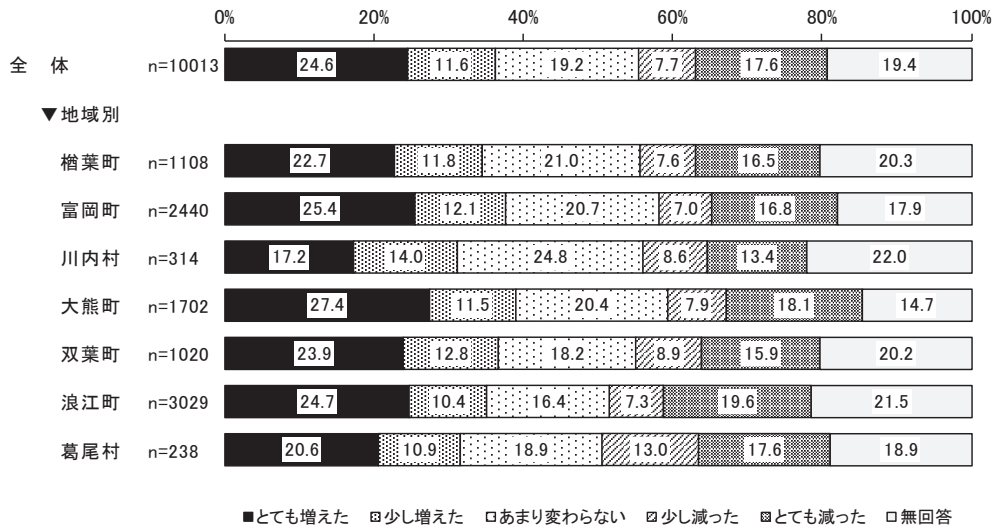


図 6.2.2 「移動（通勤・通学を除く）」時間の増減（町村別）

さらに、「移動（通勤・通学を除く）」時間は震災前と比較して、町村によってばらつきがある（図 6.2.2）。川内村は「とても増えた」割合が 17.2%と他の町村と比較して少なく、浪江町は「とても減った」割合が 19.6%と他の町村と比較して多い。

一方で、「交際・つきあい」の時間に関しては、避難指示解除準備区域ならびに居住制限区域が解除されていない、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町と帰還が始まった檜葉町、川内村、葛尾村で差が生じている。前者の 4 町では「とても減った」と答える割合が約半分であり、他者とのコミュニケーション機会が大幅に減っていることが明らかである。

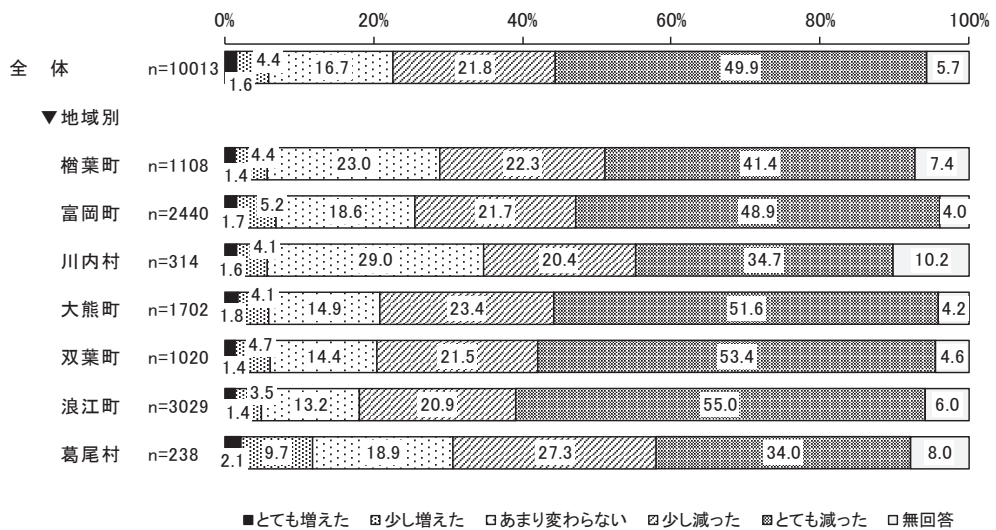


図 6.2.3 「交際・つきあい」時間の増減（町村別）

6.3 心配事を聞いてくれた人の存在

次に「過去 1 年間、必要な時に心配事を聞いてくれた人はいますか」を複数回答で問うた。その結果が図 6.3.1 である。「同居家族」が最も多く、半数以上であった。「専門職の人」や「ボランティアの人」は 1 割にも満たない程度であった。また、「聞いてくれる人はいなかった」が 1 割程度存在している。

町村別にみると、川内村と葛尾村は「近所の人」がそれぞれ 22.3%と 16.8%と、他の町村と比較して非常に高い。ただし、これらの 2 つの町村と同じく、帰還が始まった檜葉町は 9.9%であった。それ以外の項目に関しては、町村ごとに差はみられなかった。

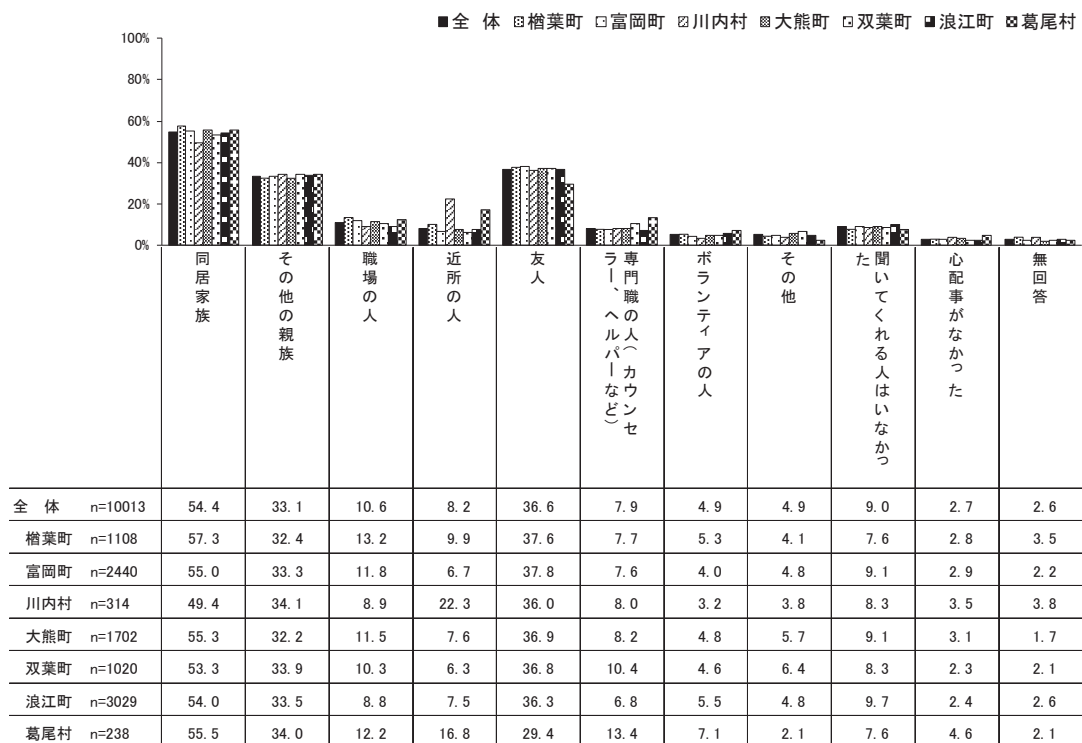


図 6.3.1 心配事を聞いてくれた人の存在（町村別）

6.4 行政やメディアへの信頼度

次に「次にあげるものについて、あなたはどれくらい信頼していますか」と問うた結果が下記の図 6.4.1 である。

全体をみると、政府よりも都道府県、都道府県よりも市町村を信頼している人の割合が高い。また、「学者・研究者」への信頼度に関して、「信頼している」「やや信頼している」を合わせた（37.6%）よりも「あまり信頼していない」「信頼していない」を合わせた方が多い（50.1%）。内閣府が実施する「科学技術と社会に関する世論調査」では、「科学者や技術者の話は信頼できると思うか」という問いに対して、「信頼できる」「どちらかという信頼できる」を合わせた割合が 78.6%で、「あまり信頼できない」「信頼できない」を合わせた割合（15.0%）よりも大きく上回っていることを踏まえても⁴、聞き方などが異なるとはいえ、これら調査対象地域の特徴といえよう。

また、町村別にみると、浪江町は特に、政府と東京電力を「信頼していない」と答える

⁴ 内閣府ホームページ：科学技術と社会に関する世論調査の概要，<https://survey.gov-online.go.jp/h29/h29-kagaku/gairiyaku.pdf>，2017，2020年1月9日アクセス

割合が他の市町と比較しても高い（図 6.4.2 ならびに図 6.4.3）。この背景には、浪江町が内閣総理大臣からの東京電力福島第一原子力発電所から半径 3km～10km 圏内の住民に屋内退避指示がなされたことを確認できず、報道から知ったこと⁵、浪江町の町民 15,000 人以上の集団での裁判外紛争解決手続（ADR）が繰り返し拒否されたこと（最終的に 2018 年 4 月に和解仲介手続きの打ち切りが、原子力損害賠償紛争解決センターより通知）などの特殊な事情を抱えたことが影響していると考えられる。

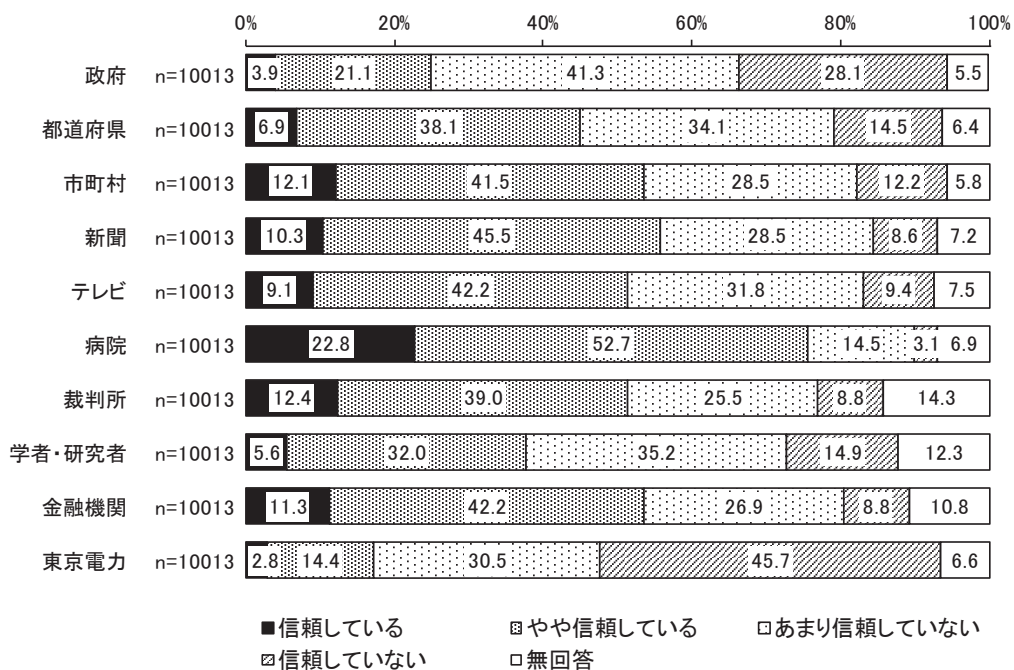


図 6.4.1 政府やメディアへの信頼度

⁵ 福島県双葉郡浪江町役場：浪江町震災記録誌，2017.

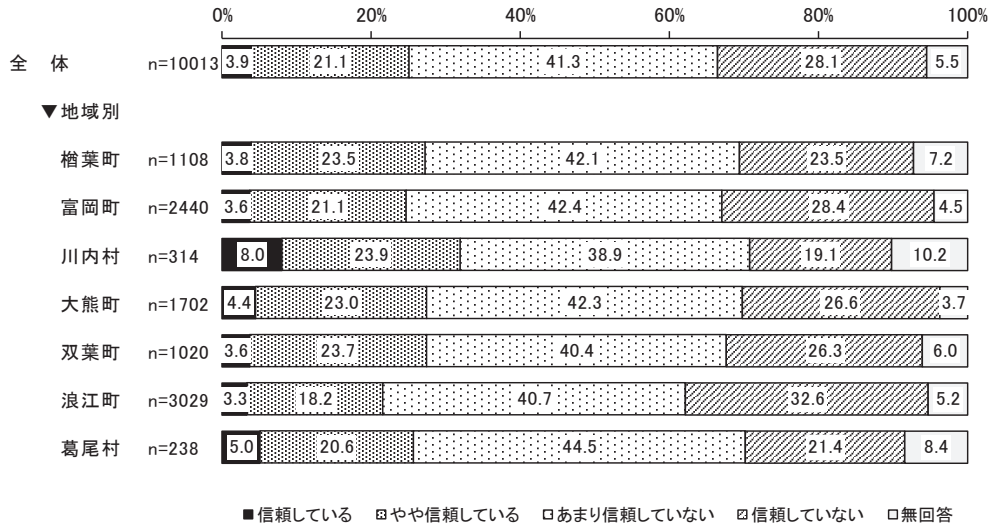


図 6.4.2 政府への信頼感（町村別）

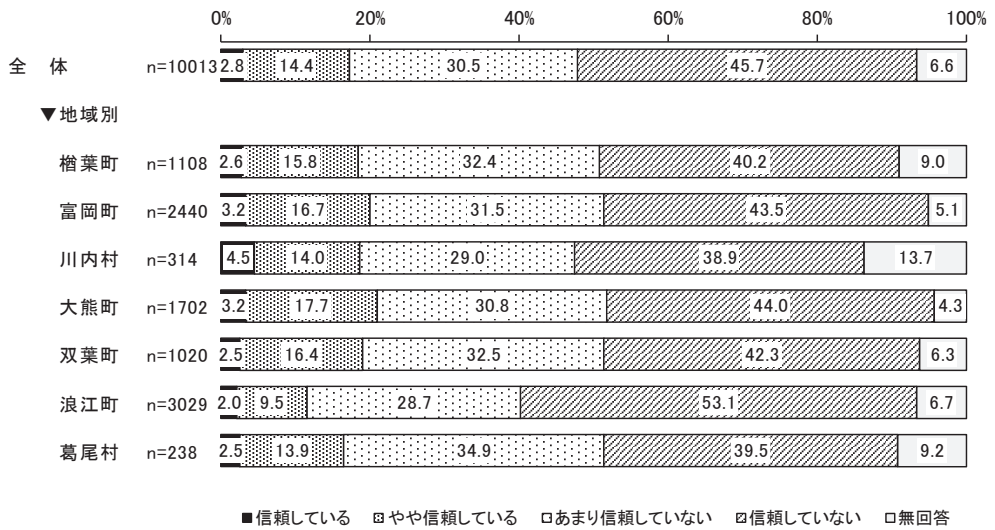


図 6.4.3 東京電力への信頼感（町村別）

7 復興観

7.1 復興に関する不安感

本調査において、復興に関連する不安に関する項目を21項目聞き、因子分析を行った（最尤法、プロマックス回転）。その結果、4因子「『ふるさと』の喪失による辛苦」「放射線被ばくの不安」「つながりの喪失」「廃炉の不安」を抽出した（表7.1.1）。以降、それぞれごとに特徴を記述する。

表 7.1.1 復興に関連する不安に関する因子分析（最尤法、プロマックス回転）

	因子1	因子2	因子3	因子4
因子1：「ふるさと」の喪失による辛苦				
問9-1 愛着ある町、村に帰れないので、つらい	.948	-.056	-.022	-.108
問9-4 本当に帰ることができるのか不安だ	.890	-.003	-.145	.026
問9-3 町、村が荒れ放題になってしまって、つらい	.816	-.110	-.027	.068
問8-8 愛着ある家に帰れず、つらい	.812	-.021	.108	-.122
問8-10 家や庭、田畑が荒れ放題になってしまって、つらい	.705	-.027	.096	-.036
問9-5 将来的に（長期的に）多くの人が帰還するかどうか不安だ	.681	-.051	-.099	.189
問9-2 仕事（生業）や畑仕事を失ってしまって、つらい	.608	.069	.061	-.021
問9-6 公営住宅など知らないところに移ることが不安だ	.521	.130	-.046	-.001
問8-11 震災前の趣味ができなくなってしまって、つらい	.485	.012	.276	-.037
問9-7 これからの前向きに考えることができず不安だ	.455	.090	.126	.107
問8-9 家族の離別などにより家族の団らんや会話が失われて、つらい	.382	.165	.266	-.081
因子2：放射線被ばくの不安				
問8-2 被ばくによる子、孫の将来の健康が不安だ	-.012	.924	-.025	-.067
問8-3 自分、子、孫などの結婚、出産など被ばくに関する差別・偏見が不安だ	-.033	.914	.022	-.093
問8-4 低線量被ばくによる健康への影響がはっきりわからないことが不安だ	-.034	.718	.024	.170
問8-1 被ばくによる自分の将来の健康が不安だ	.052	.625	-.053	.052
因子3：つながりの喪失				
問8-6 長年の友人・知人などのつながり、交流が薄くなった	-.071	-.030	.918	.033
問8-5 家族・親戚とのつながり、交流が薄くなった	.003	.056	.748	.010
問8-7 地域のつながり、交流が薄くなった	.107	-.086	.702	.061
因子4：廃炉の不安				
問9-9 原発の廃炉までに事故が起きないかどうか不安だ	-.041	-.014	.051	.917
問9-10 中間貯蔵施設、廃棄物処理施設などの安全性について不安だ	-.017	.002	.034	.913
問9-8 土壌や空間線量を考えると安全に暮らすことができるかどうか不安だ	.393	.183	-.073	.407
固有値	9.193	2.288	1.498	1.057
累積固有値 (%)	43.8	10.9	7.1	5.0
因子抽出法: 最尤法				

(1) 『ふるさと』の喪失による辛苦

まず、抽出されたのが「『ふるさと』の喪失による辛苦」である。「愛着ある町、村に帰れないので、つらい」「本当に帰ることができるのか不安だ」「町、村が荒れ放題になってしまって、つらい」「愛着ある家に帰れず、つらい」「家や庭、田畑が荒れ放題になってしまって、つらい」「将来的に（長期的に）多くの人が帰還するかどうか不安だ」との回答につよくあてはまる、ややあてはまるとの回答が半数以上であった（図7.1.1）。

なお、それぞれの項目について、因子得点を性別、年齢別、市町村別、避難指示解除後に帰還したか否か、就業者か否か（65歳以上/以下か）で分類し、特徴を見出した。年齢が高いほど、帰還が遅れている市町村ほど、帰還していない人ほど、非就業者ほど、これらの辛苦が強いことがわかった（図 7.1.2）。

（2）放射線被ばくへの不安

次に放射線被ばくへの不安である。「被ばくによる子、孫の将来の健康が不安だ」「自分、子、孫などの結婚、出産など被ばくに関する差別・偏見が不安だ」「低線量被ばくによる健康への影響がはっきりわからないことが不安だ」「被ばくによる自分の将来の健康が不安だ」などであるが、「自分の将来の健康」についてはあまり不安に思わないものの、子ども、孫などの健康、またそれによる差別などについての不安に「強くあてはまる」「ややあてはまる」と回答している人が半数以上おり、これらの不安は根強いことがわかった。また、低線量放射線被ばくへの不安についても「強くあてはまる」「ややあてはまる」と回答している人が半数以上おり、不安は完全には払しょくされていないことがわかった（図 7.1.3）。

なお、因子得点から属性ごとの特徴を見出すと、女性ほど、帰還が遅れている市町村ほど、帰還していない人ほど、やや不安感強い傾向にあったが、全体としてみて、属性のよる違いというのは大きな特徴はみられなかった（図 7.1.4）。

（3）つながりの喪失

次に「つながりの喪失」である。「長年の友人・知人などとのつながり、交流が薄くなった」「家族・親戚とのつながり、交流が薄くなった」「地域のつながり、交流が薄くなった」などであるが、多くの人が「強くあてはまる」「ややあてはまる」と同意していた。特に、友人・知人、地域のつながりについてあてはまるところを多く答えている人が多かった（図 7.1.5）。

なお、因子得点から属性ごとの特徴を見出すと、年齢が高いほど、帰還が遅れている市町村ほど、帰還していない人ほど、これらの喪失感が強いことがわかった（図 7.1.6）。

（4）廃炉の不安

次に「廃炉の不安」である。「原発の廃炉までに事故が起きないかどうか不安だ」「中間貯蔵施設、廃棄物処理施設などの安全性について不安だ」「土壌や空間線量を考えると安全に暮らすことができるかどうか不安だ」などであるが、特に、廃炉に伴う事故や中間貯蔵・廃棄物処理施設への安全性についての不安に「強くあてはまる」「ややあてはまる」と回答している人が半数以上おり、不安は根強いことが分かった（図 7.1.7）。

なお、因子得点から属性ごとの特徴を見出すと、年齢が高いほど、帰還が遅れている市町村ほど、帰還していない人ほど、これらの不安感がやや強いことがわかった。全体としては、属性のよる違いというのは大きな特徴はみられなかった（図 7.1.8）。

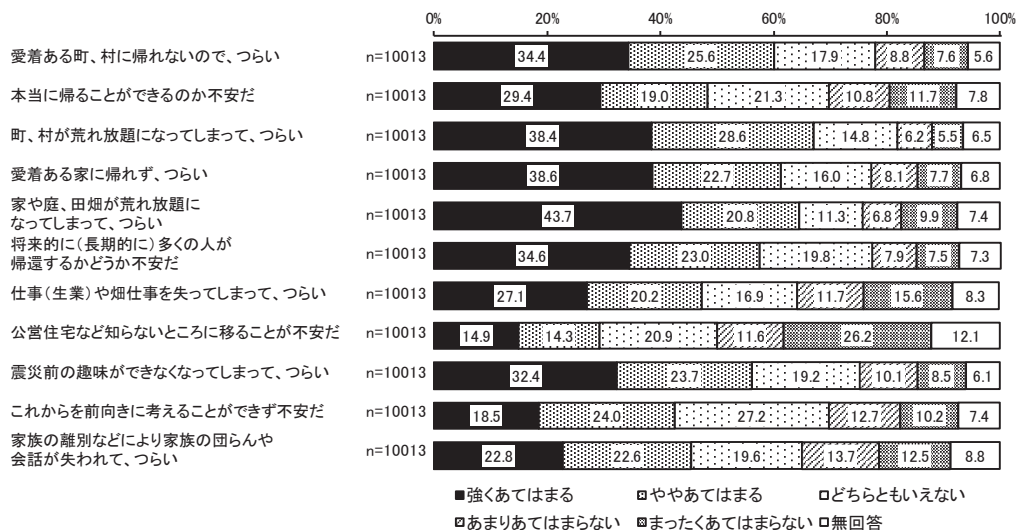


図 7.1.1 『ふるさと』の喪失による辛苦

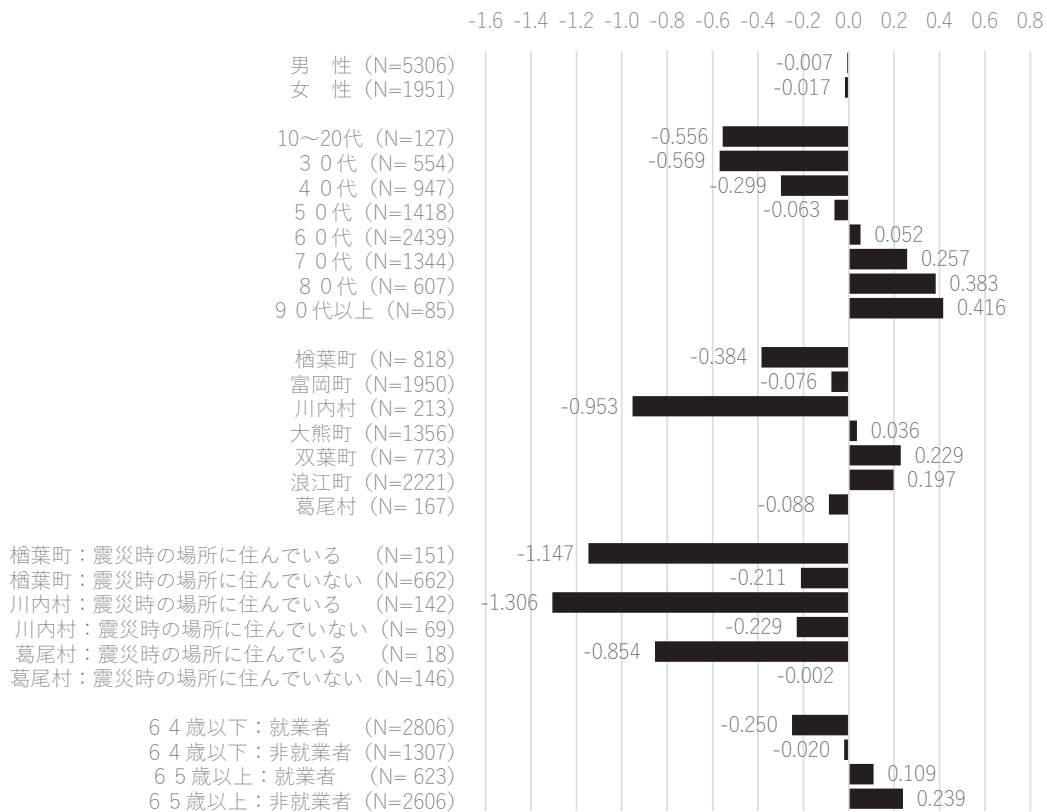


図 7.1.2 因子1：「ふるさと」の喪失による辛苦（属性別因子得点）

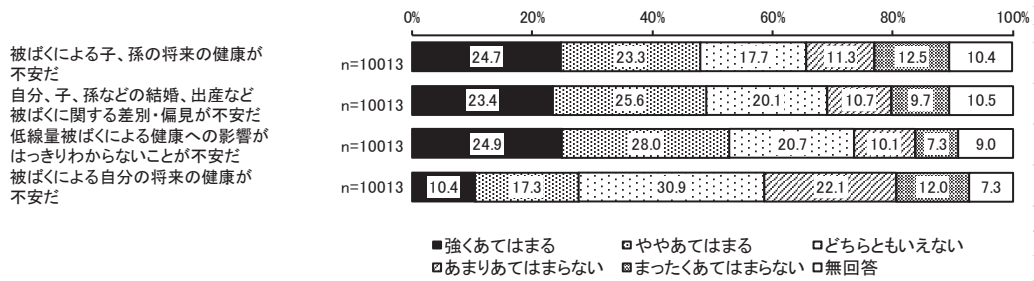


図 7.1.3 放射線被ばくの不安

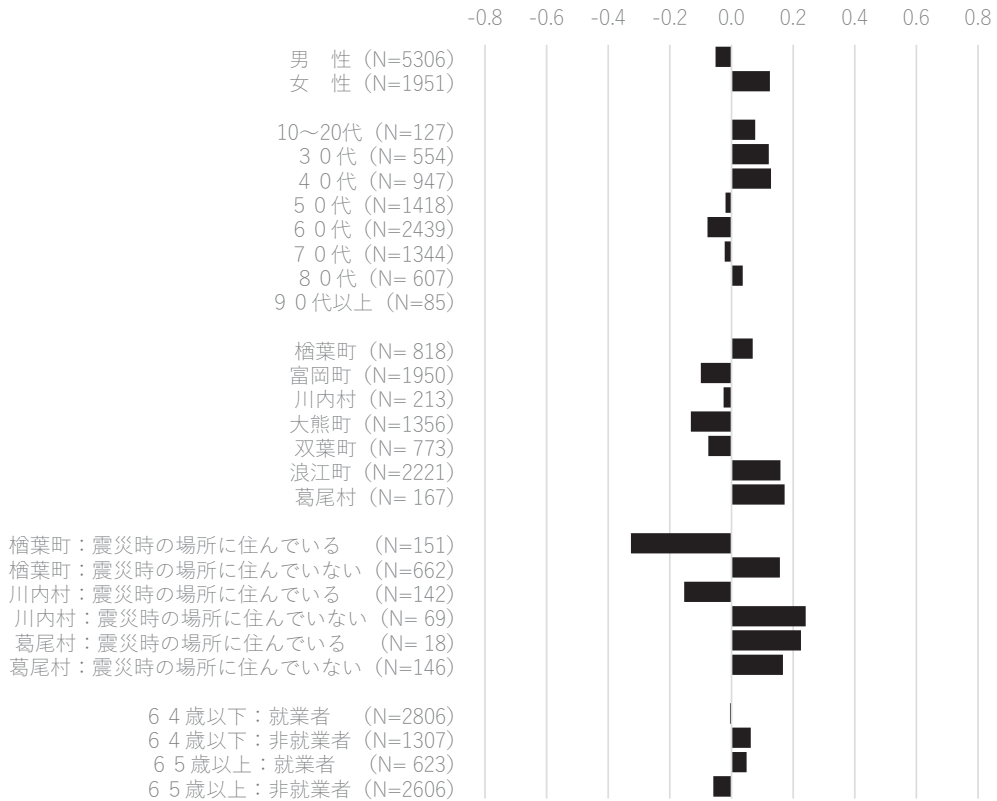


図 7.1.4 因子 2：放射線被ばくの不安（属性別因子得点）

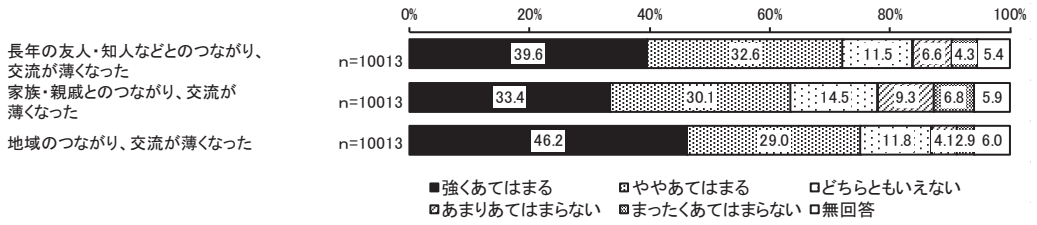


図 7.1.5 つながりの喪失

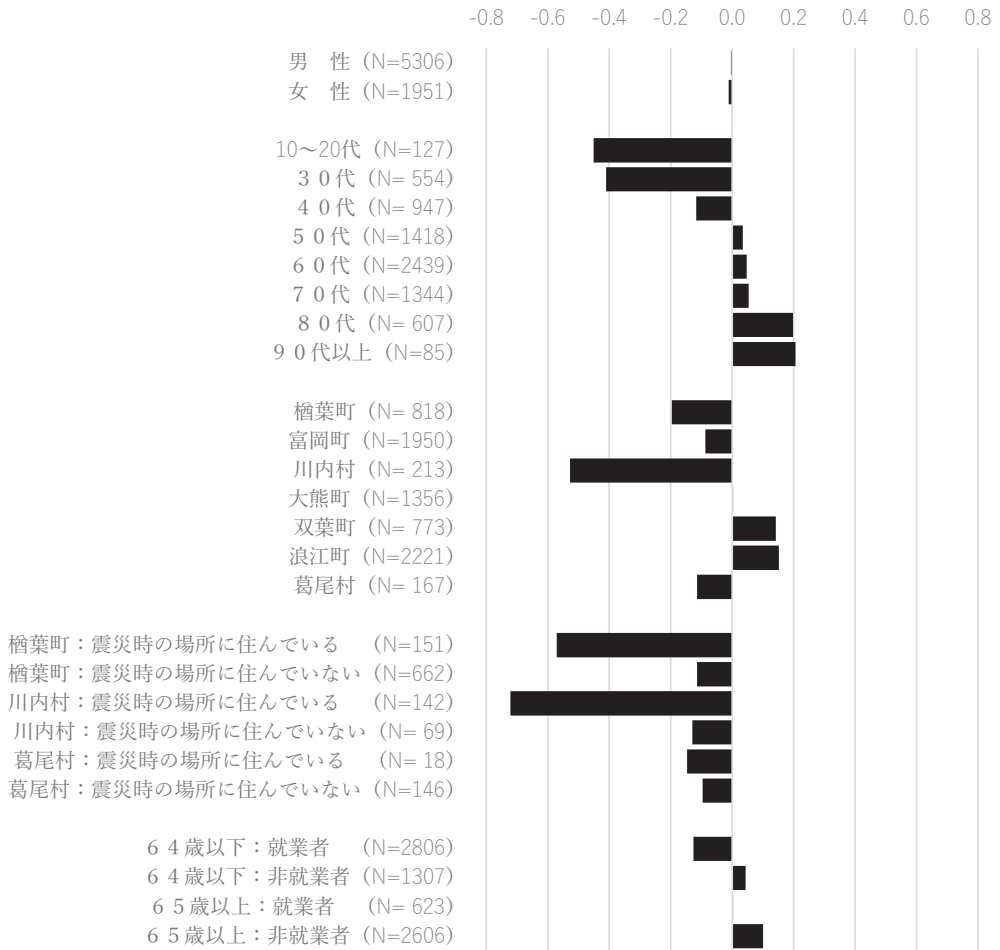


図 7.1.6 因子3：つながりの喪失（属性別因子得点）

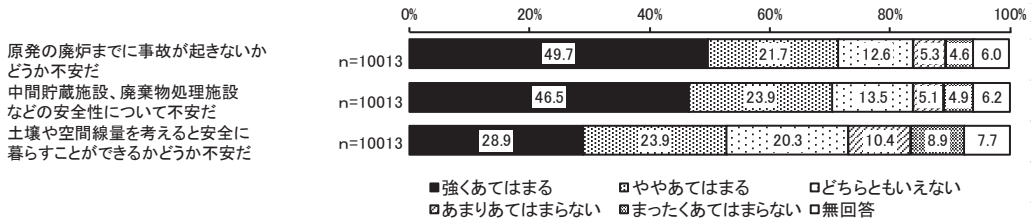


図 7.1.7 廃炉の不安

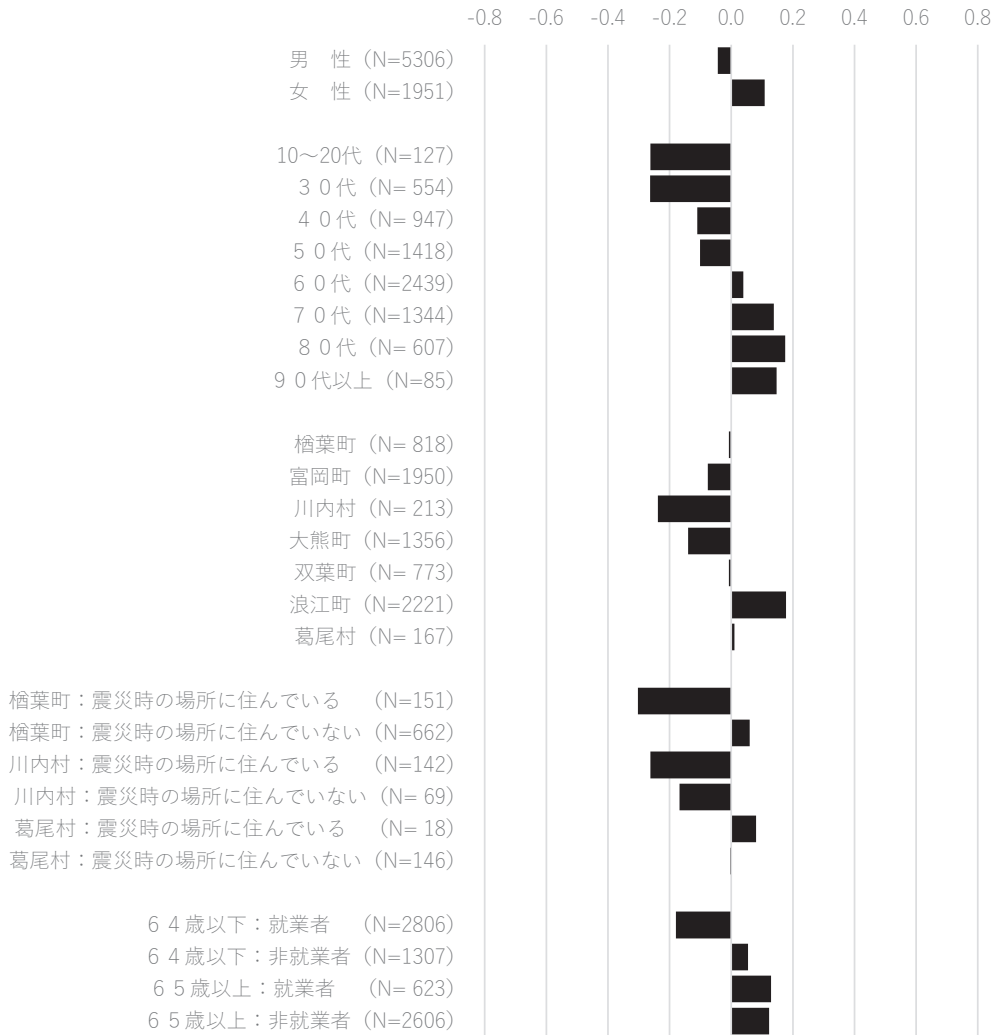


図 7.1.8 因子 4：廃炉の不安（属性別因子得点）

7.2 今後の見通し

「将来の自分の仕事や生活に希望があるあるか」と聞いたところ、特徴的なのは、若いほど、

就労者ほど、希望があると答えていた。市町村毎などでも他に大きな差はなかった（図7.2.1）。必ずしも、災害の経験によるものではないが、年齢が、将来の生活再建への意欲と大きくかかわることは改めて考えておくべきことであろう。

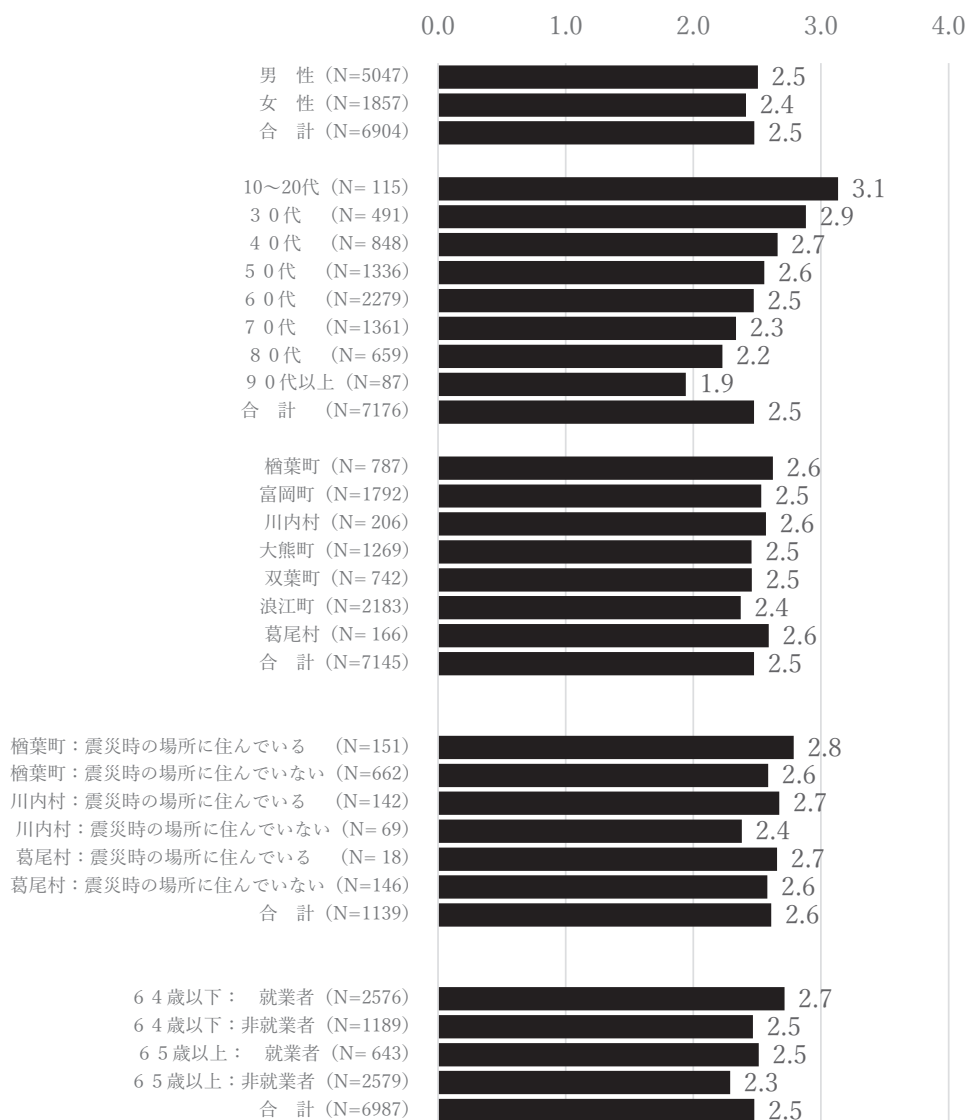


図 7.2.1 あなたは、将来の自分の仕事や生活に希望がありますか

「震災直後と比べると落ち着いてきた」「将来の自分自身の生活を考えなければと思うようになった」との質問についても、若干、若いほど、帰還した人ほど、そのように答えていた（図 7.2.2、図 7.2.3）。

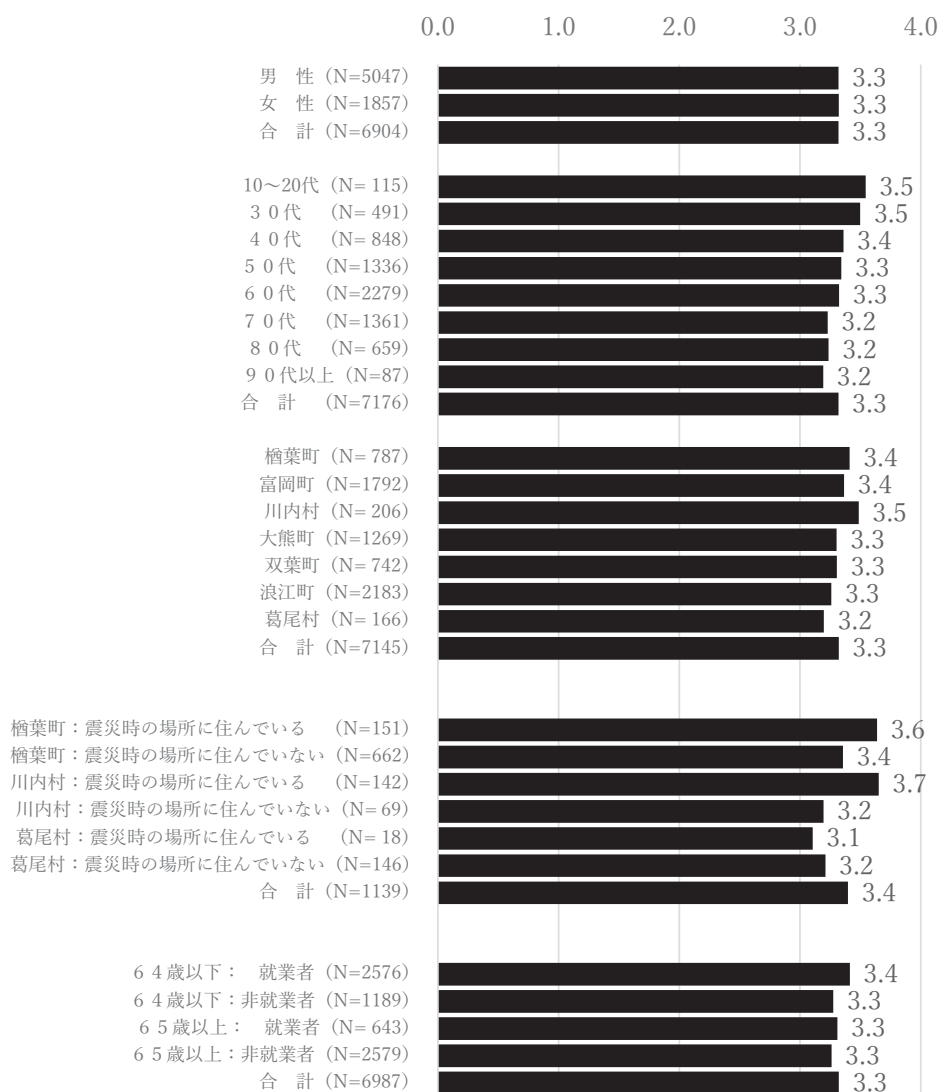


図 7.2.2 震災直後と比べると、落ち着いてきた

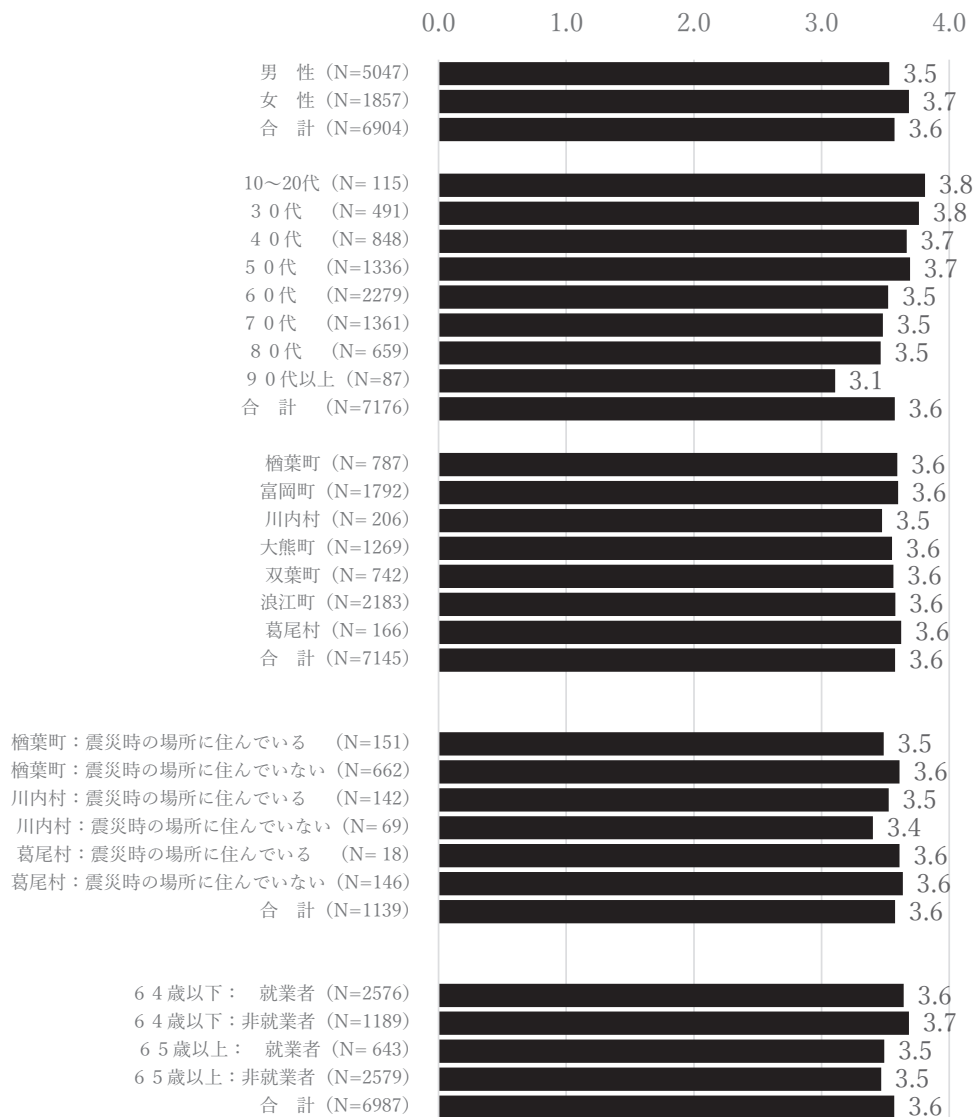


図 7.2.3 将来の、自分自身の生活を考えなければと思うようになった

「将来の町・村の未来を考えなければと思うようになった」との質問には、帰還している市町村ほど、帰還した人ほど、そのように答えていた。また、年齢層が高いほどそのように答えていた（図 7.2.4）。長く住んでいた人ほど、愛着があり、その行く末を考えている、逆の見方からすれば、不安視しているのである。

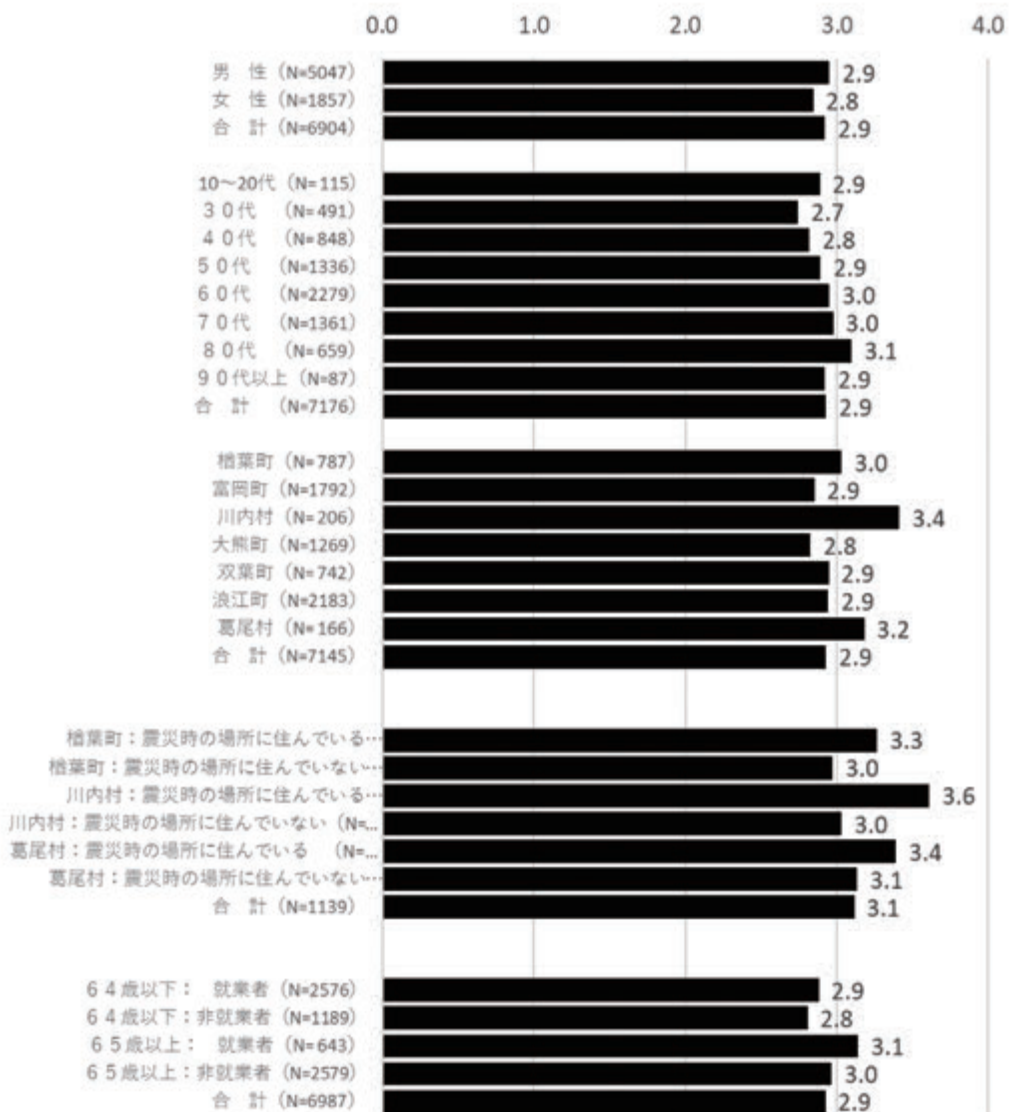


図 7.2.4 将来の、町・村の未来を考えなければと思うようになった

付属資料（アンケート調査の単純集計）

なお、下記は特段の記載がない限り、N=10013 である。

1) 世帯の状況

問1 あなたご自身についておたずねします。性別と年齢、生年月をお答えください。

(1) 性別 (男性 67.2%・女性 27.2%) 無回答 5.6%

(2) 年齢 満_____歳 (平均 63.6 歳) 無回答 1.2%
生年月 (西暦・大正・昭和・平成) _____年_____月

(3) あなたの職業についておたずねします。震災前のお仕事はどれにあたりますか。(〇は1つ)

1 正規の職員・従業員	36.5%
2 派遣社員	1.0%
3 パート・アルバイト (契約社員、嘱託を含む)	8.2%
4 会社などの役員	4.0%
5 自営業主 (自由業を含む)	14.3%
6 家族従業者 (農家や商店など自営業主の家族)	4.8%
7 内職	0.3%
8 無職 (主婦・主夫を含む)	28.3%
9 学生	0.5%
無回答	2.1%

【(3) で「1～6」とお答えの方に】

(4) 震災前のお仕事の業種をお答えください。(〇は1つ) n=6886

1 農林漁業	12.0%
2 建設業	20.7%
3 製造業	9.0%
4 電気・ガス・水道業	9.3%
5 運輸・通信業	3.5%
6 卸売・小売・飲食店	7.2%
7 金融・保険業	1.4%
8 不動産業	0.6%
9 サービス業	15.2%
10 公務	8.3%
11 その他 (具体的に: _____)	10.9%
無回答	2.1%

【全員の方におたずねします】

(5) 現在のお仕事はどれにあたりますか。(〇は1つ)

1	正規の職員・従業員	20.6%
2	派遣社員	0.9%
3	パート・アルバイト（契約社員、嘱託を含む）	6.9%
4	会社などの役員	3.2%
5	自営業主（自由業を含む）	6.5%
6	家族従業者（農家や商店など自営業主の家族）	1.3%
7	内職	0.7%
8	無職（主婦・主夫を含む）	55.5%
9	学生	0.2%
	無回答	4.1%

【(5)で「1～6」とお答えの方に】

(6) 現在のお仕事の業種をお答えください。(〇は1つ) n=3954

1	農林漁業	5.8%
2	建設業	22.3%
3	製造業	8.3%
4	電気・ガス・水道業	10.8%
5	運輸・通信業	3.5%
6	卸売・小売・飲食店	5.9%
7	金融・保険業	1.4%
8	不動産業	1.3%
9	サービス業	14.2%
10	公務	10.6%
11	その他（具体的に：_____）	13.8%
	無回答	2.1%

【全員の方におたずねします】

問2 あなたのご家族についておたずねします。

(1) 被災前に同居されていた方は、あなたを含めて何人でしたか。

() 人 (平均 3.3人) 無回答 0.9%

(2) 被災前に同居されていた方について、以下の項目の現在の状況を教えてください。また、**世帯主の方1人**に○をつけてください。震災後、別々に暮らしているご家族や亡くなった方がいる場合には、右端の欄に○をつけてください。

	世帯主	続柄	性別	年齢	在学中	仕事の有無	震災後、 別居や死去
例	○	あなたの 妻の父	男・女	64 歳	はい・いいえ	あり・なし	/
1		あなたご自身	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	/
2		あなたの	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	別居・死去
3		あなたの	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	別居・死去
4		あなたの	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	別居・死去
5		あなたの	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	別居・死去
6		あなたの	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	別居・死去
7		あなたの	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	別居・死去
8		あなたの	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	別居・死去
9		あなたの	男・女	歳	はい・いいえ	あり・なし	別居・死去

※10人以上いらっしゃる場合は下の余白に続きをご記入ください。

(3) 現在、あなたは次の状況にあてはまりますか。現在の同居の状況についてそれぞれお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

・ 65歳以上の高齢者のみの世帯	はい (32.4%)	いいえ (46.0%)	無回答 (21.6%)
・ 母子のみの世帯*	はい (3.8%)	いいえ (40.9%)	無回答 (55.3%)
*子どもは、18才以下のお子さんを指します(18歳に達する年度の3月末まで)			
・ 単身世帯	はい (15.3%)	いいえ (37.3%)	無回答 (47.4%)

2) 住まい

問3 あなたのお住まいについておたずねします。

(1) 震災時のお住まいはどちらですか。町村、^{あざ}字までご記入ください。

(当時、双葉郡に住んでいなかった方は×印に○をつけてください)

福島県双葉郡 _____ 町
村 (大字) _____ (小字) _____

震災時、双葉郡に住んでいなかった

福島県双葉郡檜葉町	11.1%
福島県双葉郡富岡町	24.4%
福島県双葉郡川内村	3.1%
福島県双葉郡大熊町	17.0%
福島県双葉郡双葉町	10.2%
福島県双葉郡浪江町	30.3%
福島県双葉郡葛尾村	2.4%
震災時、双葉郡に住んでいなかった	-
無回答	1.6%

(大字以降は省略)

【(2) ~ (3) は震災時、双葉郡に住んでいた方に】

(2) 震災時のお住まいは、現在の避難区域ではどれに指定されていますか。該当するもの1つに○をつけてください。(○は1つ)

1 帰還困難区域	40.1%
2 居住制限区域	23.8%
3 避難指示解除準備区域	25.4%
4 それ以外	6.5%
5 わからない	1.7%
無回答	2.6%

(3) 震災時のお住まいは、現在、どれくらいの線量ですか。小数第1位までご記入ください。

(わからない場合は×印に○をつけてください)

() $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト/時間) (平均 3.6 $\mu\text{Sv/h}$)

X わからない (57.9%) 無回答 6.7%

0. 1 $\mu\text{Sv/h}$ 未満	2.4%	2 $\mu\text{Sv/h}$ 台	3.0%
0. 1 $\mu\text{Sv/h}$ 台	4.0%	3 $\mu\text{Sv/h}$ 台	2.4%
0. 2 $\mu\text{Sv/h}$ 台	3.7%	4 $\mu\text{Sv/h}$ 台	1.5%
0. 3 $\mu\text{Sv/h}$ 台	2.5%	5 $\mu\text{Sv/h}$ 台	1.5%
0. 4 $\mu\text{Sv/h}$ 台	1.7%	6 $\mu\text{Sv/h}$ 台	0.6%
0. 5 $\mu\text{Sv/h}$ 台	2.1%	7 $\mu\text{Sv/h}$ 台	0.5%
0. 6 $\mu\text{Sv/h}$ 台	0.8%	8 $\mu\text{Sv/h}$ 台	0.4%
0. 7 $\mu\text{Sv/h}$ 台	0.6%	9 $\mu\text{Sv/h}$ 台	0.2%
0. 8 $\mu\text{Sv/h}$ 台	0.8%	10 $\mu\text{Sv/h}$ 以上	2.6%
0. 9 $\mu\text{Sv/h}$ 台	0.3%	わからない	57.9%
1 $\mu\text{Sv/h}$ 台	3.6%	無回答	6.7%

【全員の方におたずねします】

(4) 次に、現在のお住まいについておたずねします。現在の住まいの種類として、最も近いもの1つに○をつけてください。(○は1つ)

1 仮設住宅 (プレハブ・木造)	7.7%
2 みなし仮設住宅 (民間借上げ住宅等)	16.8%
3 自己負担の賃貸住宅 (公営住宅を除く)	6.0%
4 親戚・知人宅	2.4%
5 購入・再建した持ち家 (集合住宅を含む)	45.0%
6 元々住んでいた持ち家 (集合住宅を含む)	4.6%
7 復興公営住宅	7.9%
8 その他の公営住宅	1.7%
9 社宅・寮・官舎	1.0%
10 その他 (具体的に: _____)	5.0%
無回答	1.9%

【全員の方におたずねします】

(5) あなたは現在、震災時の場所にお住まいですか。(〇は1つ)

1 震災時の場所に住んでいない	94.2%	2 震災時の場所に住んでいる	4.5%	無回答	1.3%
→ (6) へお進みください			→ (10) へお進みください		

【(6)～(9)は、(5)で

「1 震災時の場所に住んでいない」とお答えの方に】

(n=9433)

(6) 震災時のお住まいの状況についてお聞きします。
次の中からあてはまるものを**1つだけ**選んで〇をつけてください。(〇は1つ)

1 問題なく居住することができる	12.1%
2 修理しないと住めない状態	31.1%
3 建て替えないと住めない状態	22.3%
4 取り壊した	13.4%
5 その他(具体的に: _____)	17.1%
無回答	3.9%

(7) あなたは震災時の住まいにどれくらいの頻度で通われていますか。次の中から最も近いもの**1つ**に〇をつけてください。(〇は1つ)

1 ほぼ毎日	1.4%
2 週2～3回程度	2.1%
3 週1回程度	3.3%
4 月2～3回程度	5.3%
5 月1回程度	14.2%
6 2～3ヶ月に1回程度	20.1%
7 半年に1回程度	20.2%
8 年に1回程度	24.9%
無回答	8.5%

(8) 現在、あなたはどこにお住まいですか。都道府県、市区町村までご記入ください。

_____ 都道府県	_____ 市郡	_____ 区町村
福島県内 73.1%	福島県外 24.1%	無回答 2.8%

(9) あなたは元の居住地に戻ろうとお考えですか。あなたの考えに近いもの**1つ**に〇をつけてください。(〇は1つ)

1 近年中に戻りたい	6.8%	4 戻る気はない/戻れない	57.5%
2 将来、戻りたい	10.4%	5 その他(具体的に: _____)	3.3%
3 まだ明確ではない/悩んでいる/わからない	19.7%	無回答	2.2%

【(5)で「2 震災時の場所に住んでいる」とお答えの方に】

(n=451)

(10) 現在の住まいの修理や再建の状況についてお聞きします。
次の中からあてはまるものを**1つだけ**選んで〇をつけてください。(〇は1つ)

1 震災時のまま、修理しないで住んでいる	16.6%
2 震災後、修理をして、住んでいる	67.4%
3 震災後、建て直して、住んでいる	8.2%
4 その他(具体的に: _____)	1.8%
無回答	6.0%

↓ (6ページへお進みください)

【全員の方におたずねします】

3) 健康・福祉

問4 ここからは、心身の健康についてお伺いします。

(1) あなたの健康状態は、いかがですか。(〇は1つ)

1	良い	8.3%
2	やや良い	5.4%
3	ふつう	46.1%
4	やや悪い	27.9%
5	悪い	8.9%
	無回答	3.4%

(2) 以下の5つの各項目について、最近2週間のあなたの状態に最も近い番号を

「1」から「6」の中から選んでそれぞれ1つ〇をつけてください。(〇はそれぞれ1つずつ)

	最近2週間、 私は・・・	いつも	ほとんど いつも	半分以上 の期間を	半分以下 の期間を	ほんの ために	まったく ない	無回答
1	明るく、楽しい気 分で過ごした	4.6%	14.4%	23.6%	17.5%	24.8%	10.1%	5.0%
2	落ち着いた、リラ ックスした気分で 過ごした	4.6%	15.4%	24.4%	18.4%	21.7%	10.4%	5.2%
3	意欲的で、活動的 に過ごした	4.0%	12.1%	21.1%	16.6%	22.9%	17.2%	6.1%
4	ぐっすりと休め、 気持ちよくめざめ た	4.6%	15.1%	20.6%	18.8%	22.0%	13.5%	5.4%
5	日常生活の中に、 興味のあることが たくさんあった	4.1%	9.9%	18.6%	14.6%	29.8%	17.5%	5.4%

4) 賠償を含む経済的な問題

問5 賠償を含む経済的な問題についておたずねします。

- (1) 現在の生活設計は何でやりくりされていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	賠償金	56.5%
2	勤労収入	32.7%
3	事業収入	4.9%
4	年金・恩給	50.7%
5	預貯金	28.7%
6	借金	0.7%
7	生活保護	0.3%
8	その他(具体的に: _____)	1.6%
	無回答	1.1%

- (2) 今後の生活について、あなたは経済的に不安を感じていますか。(○は1つ)

1	とても不安を感じている	33.9%
2	ある程度不安を感じている	40.5%
3	どちらとも言えない	10.4%
4	あまり不安を感じていない	12.1%
5	まったく不安を感じていない	1.9%
	無回答	1.2%

- (3) あなたは将来、医療費や介護サービス利用料の減免がなくなることに不安を感じていますか。(○は1つ)

1	とても不安を感じている	57.7%
2	ある程度不安を感じている	28.1%
3	どちらとも言えない	6.3%
4	あまり不安を感じていない	5.4%
5	まったく不安を感じていない	1.3%
	無回答	1.1%

(4) あなたは、次のような賠償を東京電力から受けていますか。次の精神的損害賠償、生命・身体損害、営業損害および就労損害についてお答えください（○はそれぞれ1つずつ）

(ア) 精神的損害賠償

1	過去に受け取ったが、現在は受け取っていない	67.3%
2	現在受け取っている	23.0%
3	全く受け取っていない	5.7%
	無回答	3.9%

(イ) 生命・身体損害賠償

1	過去に受け取ったが、現在は受け取っていない	29.7%
2	現在受け取っている	9.2%
3	全く受け取っていない	52.6%
	無回答	8.6%

(ウ) 営業損害賠償および就労損害賠償

1	過去に受け取ったが、現在は受け取っていない	41.7%
2	現在受け取っている	7.3%
3	全く受け取っていない	41.0%
	無回答	10.0%

(5) 住居に関する賠償（財物、住居確保損害）は受け取りましたか。あてはまるものの1つに○をつけてください。（○は1つ）

1	すでに受け取っており、今後請求する予定はない	39.3%
2	一部受け取っており、今後追加請求する	33.3%
3	今後請求するつもりだが、まだまったく請求していない	6.6%
4	請求するつもりはない	1.7%
5	適用対象外のため請求できない	7.1%
6	請求書類が東京電力から届いていない	1.7%
7	その他（具体的に：_____）	5.5%
	無回答	4.8%

(6) 政府や東京電力は、慰謝料や営業損害などの継続的な賠償金の支払いを、今後1～2年程度でおおむね終了していく方針を示しています。これについてあなたは不安を感じていますか。すでに賠償が打ち切られている方もお答えください。(○は1つ)

1	とても感じている	54.4%
2	ある程度感じている	24.1%
3	どちらとも言えない	9.9%
4	あまり感じていない	6.8%
5	まったく感じていない	2.7%
	無回答	2.1%

(7) 賠償に関する困りごとについてお伺いします。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	請求書類や手続きが煩雑だ	48.9%
2	賠償額が少ない	46.5%
3	地域によって賠償に差がある	42.0%
4	東京電力と国が賠償額を決めてしまう	45.2%
5	住居確保損害の使い勝手が悪い	18.6%
6	東京電力の賠償相談の対応に不満がある	25.9%
7	東京電力から、過払い分の返還請求(今後の支払額から控除する通告)を受けている	2.5%
8	賠償金に課税されてしまう	17.1%
9	原子力損害賠償紛争解決センター(ADRセンター)を利用したが、その解決内容に不満がある	7.8%
10	その他(具体的に: _____)	9.6%
	無回答	8.0%

5) 生活

問6 現在の暮らしについてお伺いします。

(1) あなたは現在の生活においてお困りのことはありますか。 **あてはまるものすべて**に○をつけてください。(○はいくつでも)

1	仕事や事業	25.4%
2	生活費	35.4%
3	健康や介護	53.5%
4	家族関係	21.4%
5	住居	24.0%
6	放射線の影響	20.0%
7	子どもの学校	6.3%
8	周りの人との人間関係	35.0%
9	その他(具体的に: _____)	5.7%
10	特に困っていることはない	12.3%
	無回答	2.8%

(2) あなたの生活時間についておたずねします。以下の活動は、震災前と比べて増えましたか、それとも減りましたか。「1」から「5」までの番号にそれぞれ**1つずつ**○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	とても増えた	少し増えた	あまり変わらない	少し減った	とても減った	無回答
1 睡眠	3.7%	8.9%	40.1%	25.6%	17.9%	3.8%
2 仕事	5.6%	5.7%	20.6%	9.4%	41.7%	17.0%
3 移動(通勤・通学を除く)	24.6%	11.6%	19.2%	7.7%	17.6%	19.4%
4 テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	14.1%	17.7%	41.0%	11.3%	8.6%	7.3%
5 趣味・娯楽	2.1%	8.7%	28.6%	20.8%	33.3%	6.4%
6 交際・つきあい	1.6%	4.4%	16.7%	21.8%	49.9%	5.7%
7 受診・療養	22.1%	28.8%	34.6%	5.4%	4.4%	4.7%

(3) 過去1年間、必要な時に心配事を聞いてくれた人はいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	同居家族	54.4%
2	その他の親族	33.1%
3	職場の人	10.6%
4	近所の人	8.2%
5	友人	36.6%
6	専門職の人(カウンセラー、ヘルパーなど)	7.9%
7	ボランティアの人	4.9%
8	その他(具体的に: _____)	4.9%
9	聞いてくれる人はいなかった	9.0%
10	心配事がなかった	2.7%
	無回答	2.6%

(4) あなたのご家族には、長期にわたる心身の病気・障がいや高齢のためにケアが必要な方はいますか。あなたと別々に暮らしている方も含めてお答えください。

(○は1つ)

1	家族にいて、自分が主にケアしている	18.1%
2	家族にいて、自分は主にケアしていない	18.9%
3	家族の中にいない	54.9%
	無回答	8.0%

(5) 次にあげるものについて、あなたはどれくらい信頼していますか。「1」から「4」までの番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	信頼している	やや 信頼している	あまり 信頼していない	信頼していない	無回答
1 政府	3.9%	21.1%	41.3%	28.1%	5.5%
2 都道府県	6.9%	38.1%	34.1%	14.5%	6.4%
3 市町村	12.1%	41.5%	28.5%	12.2%	5.8%
4 新聞	10.3%	45.5%	28.5%	8.6%	7.2%
5 テレビ	9.1%	42.2%	31.8%	9.4%	7.5%
6 病院	22.8%	52.7%	14.5%	3.1%	6.9%
7 裁判所	12.4%	39.0%	25.5%	8.8%	14.3%
8 学者・研究	5.6%	32.0%	35.2%	14.9%	12.3%
9 金融機関	11.3%	42.2%	26.9%	8.8%	10.8%
10 東京電力	2.8%	14.4%	30.5%	45.7%	6.6%

問7 次の8つの項目について、あてはまる時期があれば、それぞれ例にならって矢印で下記にご記入ください。なお、それぞれそのような時期がなかった場合には書かなくてかまいません。(※省略)

	2011年	2012年			2013年			2014年			2015年			2016年			2017年
		4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	現在
例 避難所にいた期間	←→																
1 体調がよくなかった／ よくない																	
2 精神的に不安定だった ／不安定だ																	
3 被ばくへの不安が強か った／強い																	
4 人間関係がギクシャク していた／している																	
5 家、生活、思い出など 失った過去への喪失感 が強かった／強い																	
6 ふるさとを失った喪失 感が強かった／強い																	
7 将来の生活への不安が 強かった／強い																	
8 廃炉や地域の復興への 不安が強かった／強い																	

問8 現在のあなたのお考えについて、「1」から「5」までのあてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	強くあてはまる	ややあてはまる	どちらとも いえない	あてはまらない あまり	あてはまらない まったく	無回答
1 被ばくによる自分の将来の健康が不安だ	10.4%	17.3%	30.9%	22.1%	12.0%	7.3%
2 被ばくによる子、孫の将来の健康が不安だ	24.7%	23.3%	17.7%	11.3%	12.5%	10.4%
3 自分、子、孫などの結婚、出産など被ばくに関する差別・偏見が不安だ	23.4%	25.6%	20.1%	10.7%	9.7%	10.5%
4 低線量被ばくによる健康への影響がはっきりわからないことが不安だ	24.9%	28.0%	20.7%	10.1%	7.3%	9.0%
5 家族・親戚とのつながり、交流が薄くなった	33.4%	30.1%	14.5%	9.3%	6.8%	5.9%
6 長年の友人・知人などとのつながり、交流が薄くなった	39.6%	32.6%	11.5%	6.6%	4.3%	5.4%
7 地域のつながり、交流が薄くなった	46.2%	29.0%	11.8%	4.1%	2.9%	6.0%
8 愛着ある家に帰れず、つらい	38.6%	22.7%	16.0%	8.1%	7.7%	6.8%
9 家族の離別などにより家族の団らんや会話が失われて、つらい	22.8%	22.6%	19.6%	13.7%	12.5%	8.8%
10 家や庭、田畑が荒れ放題になってしまって、つらい	43.7%	20.8%	11.3%	6.8%	9.9%	7.4%
11 震災前の趣味ができなくなってしまって、つらい	32.4%	23.7%	19.2%	10.1%	8.5%	6.1%

問9 現在のあなたのお考えについて、「1」から「5」までのあてはまる番号にそれぞれ**1つずつ**○をつけてください。(○はそれぞれ**1つずつ**)

	強くあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
1 愛着ある町、村に帰れないので、つらい	34.4%	25.6%	17.9%	8.8%	7.6%	5.6%
2 仕事（生業）や畑仕事を失ってしまって、つらい	27.1%	20.2%	16.9%	11.7%	15.6%	8.3%
3 町、村が荒れ放題になってしまっ て、つらい	38.4%	28.6%	14.8%	6.2%	5.5%	6.5%
4 本当に帰ることができるのか不安だ	29.4%	19.0%	21.3%	10.8%	11.7%	7.8%
5 将来的に（長期的に）多くの人が 帰還するかどうか不安だ	34.6%	23.0%	19.8%	7.9%	7.5%	7.3%
6 公営住宅など知らないところに移 ることが不安だ	14.9%	14.3%	20.9%	11.6%	26.2%	12.1%
7 これからを前向きに考えることが できず不安だ	18.5%	24.0%	27.2%	12.7%	10.2%	7.4%
8 土壌や空間線量を考えると安全に暮 らすことができるかどうか不安だ	28.9%	23.9%	20.3%	10.4%	8.9%	7.7%
9 原発の廃炉までに事故が起きない かどうか不安だ	49.7%	21.7%	12.6%	5.3%	4.6%	6.0%
10 中間貯蔵施設、廃棄物処理施設な どの安全性について不安だ	46.5%	23.9%	13.5%	5.1%	4.9%	6.2%

問10 現在のあなたのお考えについてお伺いします。

(1) あなたは、将来の自分の仕事や生活に希望がありますか。(○は**1つ**)

1 大いに希望がある	2.7%
2 希望がある	13.3%
3 どちらともいえない	29.8%
4 あまり希望がない	31.4%
5 まったく希望がない	19.1%
無回答	3.6%

(2) 以下の3つの項目について、「1」から「5」までのあてはまる番号に**1つずつ**○をつけてください。(○はそれぞれ**1つずつ**)

(3) 前問(2)で「1」「2」とお答えの方におうかがいします。それはいつ頃からですか。

「1」～「5」の番号に 1つずつ ○をつけてください。	強くあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あてはまらないあまり	あてはまらないまったく	無回答
1 震災直後と比べると、落ち着いた	6.6%	27.0%	29.5%	7.0%	4.8%	25.2%
2 将来の、自分自身の生活を考えなければと思うようになった	16.1%	21.8%	26.9%	5.7%	3.1%	26.4%
3 将来の、町・村の未来を考えなければと思うようになった	5.5%	10.6%	36.9%	11.9%	7.5%	27.6%

【前問でそれぞれ「1」「2」とお答えの方に】

それはいつ頃からですか。

(年は西暦でご記入ください)

年 月頃
から

年 月頃
から

年 月頃
から

※省略

問 11 東日本大震災・福島第一原子力発電所事故からの約6年を振り返って、あなたの思い／意見／提案などがあれば、ぜひお書きください。

省略